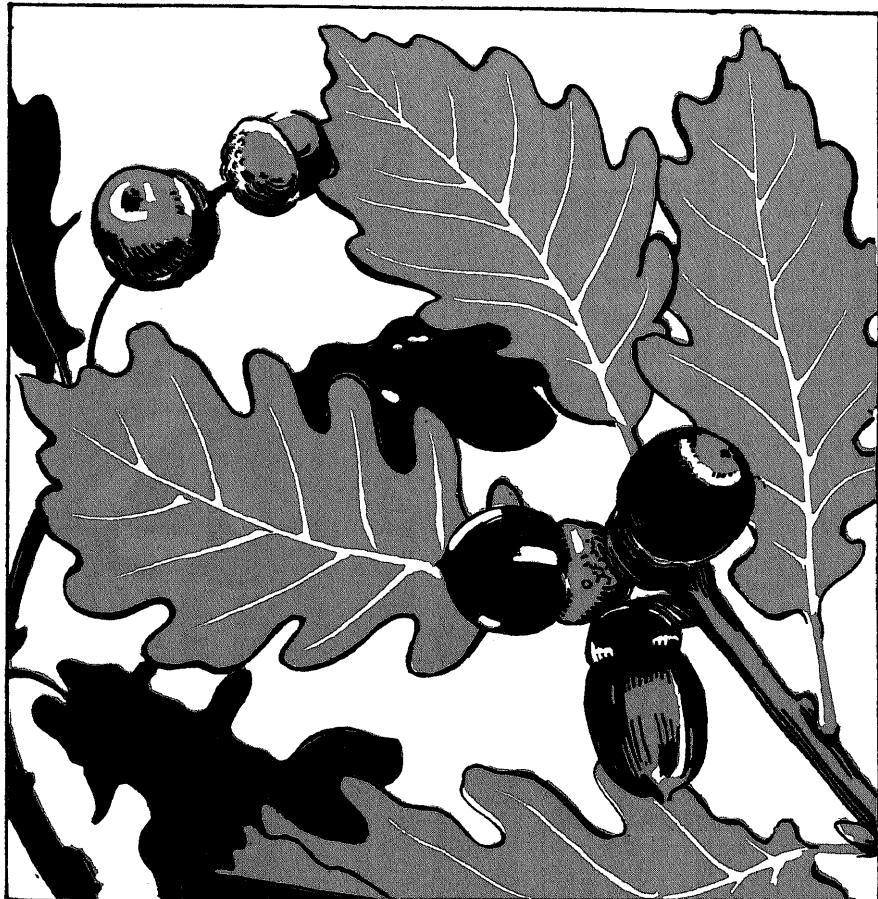


育教の兒幼

號九・八第 號月九 卷七十三第



東京女子高等師範学校内会
日本幼稚園協会

東京高等
範學校教師

文學博士 小野島右左雄著

菊判洋裝紙數二百八十九頁
定價金二圓五十錢·送料廿二錢

新刊

現代性格心理学

所行發

東京市牛込區一町天辨

四一

京

東

京

市

牛

込

區

一

町

天

辨

所

行

發

日本精神
研究の
科學理論
漸く成る

文學博士

小野島右左雄著

要必文
書檢

拾數年高等學校、專門學校、大學等に於て過去を清算し將來に延び様とする著者の一つの急願として本書の序に於て最も如く實に本著は博士が書かれることを最も高めと目する。伯氏は博士が書かれることを最も高めと目する。一般心理學の愛好者は勿論の如き問題を解決し之を極めて體系的に記述派士形程度

三最近心理学概說

菊判洋紙數價全一百五十六頁一冊餘錢三

中文館書店

京東番七二四八

勿論の如き問題を解決し之を極めて體系的に記述派士形程度

菊判洋紙數價全一百五十六頁一冊餘錢三



號九・八第 幼 育 教 の 兒 小 卷七十三第

—(次) 目—

口 繪

卷頭—世界教育會議	倉橋惣三(一)
子供の環境(二)	山下俊郎(四)
保育課程と保育案	和田實(八)
お母さん話』子鼠さんと玉蜀黍のお話	武田雪夫(一四)
結核豫防対策と虚弱兒童養護問題	牛島隆則(二〇)
第一回フレーベル賞幼兒童話審査發表	(三毛)
入選童話十五夜のお山	倉田せつみ(完)
時計の子供	佐藤久子(哭)
めだか	米田ヨネ(畠)
選外佳作積木の御殿	中野静(堀)
幼稚園を覗く(二)	竹村一(翁)
お馬の話(二)	白根孝之(穴)
幼兒教育の文化性(一)	倉橋惣三(大)
雜錄	(一五)

再 版 四 版

日本幼稚園協会編 幼稚園談話集

菊版三五〇頁
定價金壹圓五拾錢

朝鮮	地方	北海道	市
洲	・・・	太	内
	満樺		金六錢
			金拾五錢

四 版 版 刊

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 系統的保育案の實際

定 價 金 壱 圓
送 料 金 六 錢

一ヶ月	金 參 拾 五 錢
送 料	金 一 錢
一ヶ年	金 四 圓 貳 拾 錢
料	共

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ひてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと信じます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたければ幸です。

幼児の教育

一保育案の實際は幼稚園必須の資料
一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好簡の参考
一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勧む

發行所

日本幼稚園協會

○定價及郵稅を本會宛直接御註文下さい。

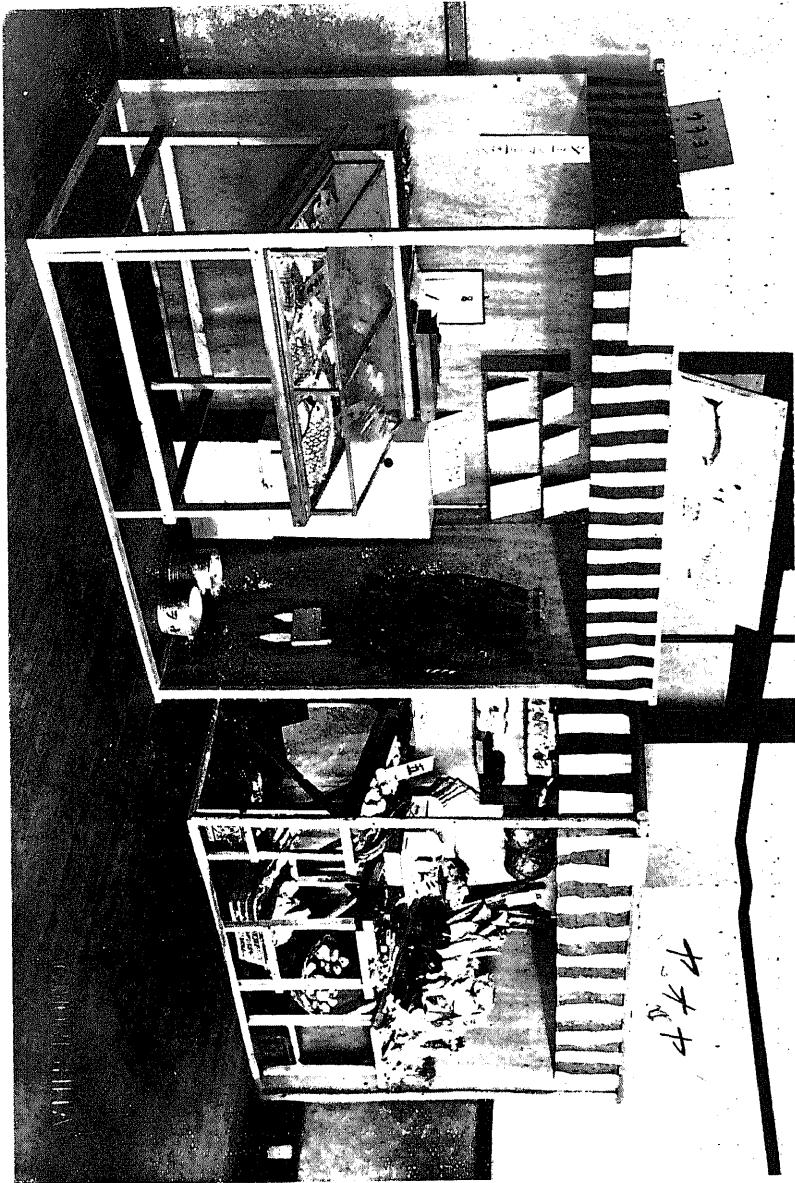
東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
振替 東京一七二六番

月刊

幼稚教育に關する忠實なる月刊雑誌として、眞に全國幼稚園、託児所の方々のものたらんことを切望してゐます。



(一) 部園稚幼及前學就會覽展育教議會育教界世



(二) 部園稚幼及前學就會覽展育教議會育教界世

育教の兒幼

昭和二十一年九月

世界教育會議

—就學前及幼稚園部—

倉橋惣三

待望の世界教育會議は、豫定の通りの日程で、期待の通りの成功裡に行はれた。東京帝國大學の會場に、東京女子高等師範學校の展覽會場に、その他各種會合に、招待に、催しものに、外國側一千餘名、日本側二千餘名、相集り、相語り、相論じ、相笑ひ、相親んだ。

部會に於ける就學前及幼稚園部は帝大十八番教室を會場として、八月二一、二二兩日行はれ、議長は、英國のミス・オーウエンが來會を待つてゐたが、カナダのミス・フリナ・クルーズ (Miss Frima Kruse) が代つた。女史はカナダのマクドナルド・カレッヂの教授で、カナダ教員聯合會を代表する人、穏かなものの靜かな上品な人である。祕書はアメリカのコロンビヤ大學幼稚部のミス・エデス・ユー・コナード (Miss Edith U. Conard) で、快活激刺コロンビヤ大學型のテキバキミ事務的手腕のある人である。出席の會員は日本人百三十八名、外國人七十二名。その内アメリカ三十六名、印度十六名、カナ

ダ十名、ヒリッピン三名、満洲二名、中華民國二名、記載不明二名といふ割合である。

第一日は講演、第二日は報告及討議會といふプログラムで、用語はすべて英語の規定であるが、日本人多數の會合であるから、簡単なる要領紹介を日本語で行つた。

四日ご五日ごに家庭及び學校部の部會が同じ會場に於て行はれ、七日には就學前及幼稚園部ご此の部ごの聯合會が一十五番教室で開かれた。その時の議長は家庭及び學校部の議長ミセス・デュー・ケー・ペッティングル (Mrs. J. K. Pettingill) であつた。女史はアメリカのウェーン大學教授で、全米兩親教師協會の會長として有名ある人である。高雅優美、社交的な快活な人で、議場に對する手腕は實に驚嘆すべきものがあつた。祕書としては青山女學院のアレキサンダー女史が之を助けた。

聯合會としては、その一日であつたが、實は兩部の性質上初めから同一の出席會員も多く、殊に日本側準備委員諸君は、初めから相談して協力せられたから、實際上に於ては五日間に涉り、幼兒ご母ご、家庭ご幼稚園ご學校ごに就て語りあつたといつてよい。そして僅に五日間であり、相當盛りあげた中味であり、殊に、言語の通じ難い場合も少なくなかつたに拘はらず、一同は非常の満足を以て、和氣を以て會を終始した。外國人側の満足も充分であつて、兩部の聯絡委員を兼ねて、外國側ご交渉するこの多かつた私の耳には、たえず、その満足の聲が聞えてゐた。

それにしても、こゝに到るまでの各方面の努力、わけても私としては兩部の準備委員諸君の久しき努力ご當日の御精勵ごとに就て深く感謝せざるを得ない。

展覽會の方は、これ亦一般の好評裡に、幼稚園、家庭教育等の部は、附屬幼稚園を會場ごして、性質上、極めて和やか

な、あかるい世界を展開して、観覧者の心を、知識のみならず感情にまで滲らせた。此の展覽會に就て、各方面的有益なる出品と共に、殊に、三月、五月の雛人形を初め、多大の犠牲的好意出品をして下さつた山田徳兵衛氏に感謝せなければならぬ。

幼稚園の庭園は、泉水のしつらへようしく、憩の庭となつて、人々は風鈴の鳴る簾屋根の下に、冷い飲物を饗せながら、憩の庭を樂しんだ。

尙ほ記し添へて置きたいことは、六日の午前、外國の希望者五十名程を日本幼稚園協會に於て案内し、日本橋區常盤幼稚園、麹町區番町幼稚園、小石川區私立東京保姆養成所幼稚園、女高師附屬幼稚園を視察の上、正午茗渓會館に於て日本側數十名を加へて簡単な招宴を開き、食卓に於てこもぐ立つて名のりを擧げる等、極めて懇親した。又、席上、外國の人々銘々へお土産として函入りの押繪羽子板を贈つたが、あの美しい押繪が、あの人々の居間なり、幼稚園なりに飾られて、日本の幼稚園界が、にこやかに記念せられるであらうことは、最もほゝゑましい想像である。

(尙ほ公議に於ける詳細は事務局から發表せられる筈で、その際御紹介することにする)

子供と環境（二）

山下俊郎

一 環境をどう考へるか

前に述べた様な色々な事情からして、子供を取り扱つて行く教育の上に環境といふものが非常に大事な意味を持つて來るのであるが、この環境に就いての色々の問題を考へて行くに就いて、わたくし達は先づ少なくとも二つの問題をよく考へて態度をはつきりと定めて置かなければならぬ。その第一の問題は一體何を環境と言ふかといふ事であり、第二の問題はこの様に考へられた環境といふものを教育の立場からどういふ風に考へるべきかといふ事である。

先づ第一の問題、即ち何を環境と言ふかといふ事を考へて見たいと思ふ。

環境といふのは一人の子供を取り巻いてゐる世界である。この子供を取り巻いてゐる世界を名づけてわたくし達は外界とい言つてよいだらう。然し外界といふを單に子供を取り巻いてゐる世界といふだけの事である。環境といふ以上はこれは決して單なる外界であつてはならぬ。環境は子供を取り巻いてゐる外界のうちで、子供と何かの交渉を持ち、子供に何かの影響を與へてる一部分だけを言ふのである。然したゞかういふ風に言つてしまつたゞけでは何だかひきく頼りない様な氣がする。右の「子供と何かの交渉を持つ」といひ、「何かの影響を與へる」といふのが一體どの様な目印で定められるかといふ事を、わたくし達は何となく探り度いのである。

そこである人達は「子供が絶えず接觸してゐる外界」といふものが環境であると考へた。これは、一番普通に考へられてゐ

る環境の考へ方であると言つていゝ。「あの子供は環境が悪いから」と言ふ様な事を言ふ場合には子供を絶えず取巻いてゐる人々や物がよくないといふ事を普通は意味してゐる。ところが子供が絶えず接觸してゐない外界であつても、唯一度接した切りで恐ろしい影響を持つ事がある。かういふものは假令唯一度接した切りであつても矢張り環境の考へなくてはならない。そしてまた極く厳密に考へて見るほんとに「絶えず」子供に接觸してゐる外界のものは實際にはないのである。例へば家庭といふものは、勿論子供に亘つて大事な環境であるけれども、子供が幼稚園なり學校なりへ行つてゐる間は子供は家庭から離れてゐるわけで子供は家庭といふ外界に「絶えず」接觸してゐることは言へない。それだからとて家庭が子供の環境でないとは誰も言へないのである。かう考へて見る子供は絶えず接觸してゐるものだけが環境だとは言へないわけである。またある人達は、子供が、これは「自分の生活してゐる世界だ」といふ様な親しみを持つた外界が環境であると言つてゐる。かういふ親しみを持つた世界といふものはなる程子供に強い影響を持つてはゐる、然しそれだけからばかり影響を受けることは限らない。この事は前の「絶えず接觸する世界」といふ所で考へたのも同様であるし、また知らずのうちに子供が影響を受けてゐる環境といふものはその考への中に入り切らないのであるから、かういふ考へ方もまだ充分とは言へないのである。

かういふ風に考へて来る、環境といふものを定めて來るのに、子供は環境との交渉の仕方をはつきりと擱んで、環境ささえではない外界との限界といふものを定めるといふ事は中々さう簡単に形式的には行かないものである。そしてこれはどういふ所にさういふ困難さの原因があるかと言ふ事を考へて見る、わたくし達に環境といふものをどう考へなければならぬかといふ事がはつきりして來ると思ふのである。

そこでわたくし達は、環境といふものは、そこからどこまでが環境であつて、何處からさきが環境でないといふ風には

つきりと空間的に場所を定められるものではないと言ふ事を先づ考へなければならない。環境とは一人の子供と何かの交渉を持ち、何らの影響を與へる外界の一部分である。わたくし達はさきに言つた。ところでこの「何かの交渉を持つ」と言ひ何かの影響を與へるといふのは、外界それ自體の性質ではなくて子供との關係である。環境といふのは子供との關係に於て考へられる概念である。子供をぬきにして何處から何處までが環境であるといふ風に考へる事が既に無理なのである。子供に對するは、たらきに於て、子供に對する意義に於て考へられるものが環境である。だから厳密に言ふならば環境の範圍は子供によつて、また年齢によつて違つてゐるのである。單に子供の生活してゐる場所といふ事だけから考へて見ても、一二三歳の幼児にとっては家庭が唯一の生活の場所であるが、もつと大きくなると幼稚園も子供の生活の場所であり、學校も生活の場所である。それだけ大きい子供の環境は廣くなつて來てると言つていゝわけである。

このやうにして環境は子供との關係に於て、子供に對するは、たらきに於て、子供への意義に於て考へるべきものであるから、わたくし達は子供を取り卷いてゐる外界のうち、凡そ「何かの影響を與ふべきもの」を凡て環境と考へなくてはならないのである。これが環境であるといふ風に落ちついてゐるわけには行かないるのである。

× × × × ×

さてこの様に考へらるべき環境を子供の教育の上から如何に考へるべきであらうか。わたくし達は次にこの問題を考へなければならぬ。

教育の上から考へらるべき問題といふのは、環境と子供との關係、即ち言ひ換へるならば子供の個性の形づけをしてくる環境の力によつて結びつけられてゐる環境と子供との關係を教育上どういふ風に利用して行くかと言ふ問題である。

かういふ點から考へるに、先づ第一にわたくし達の眼前に浮いて來る問題は、現在教育者、保育者の眼の前に立つてゐる

る一人の子供の個性である。この子供がいまゝで大きくなつて來るまでの間に、その個性の上に影響を與へて來てゐる環境がさういふものであつたかと言ふ事、そして現在その子供がさういふ環境に在るかと言ふ事は子供の現在の姿である所のその子供の個性を理解する上にさうしても缺く事の出來ないものである。現在在る子供の姿の上に影響してゐる環境といふものは、現在眼の前に立つてゐる子供をこれから教育して行く場合の出發點となるものであるから、わたくし達はこれを出發環境と呼ぶのである。この出發環境は子供の現在ある姿を理解する爲に、さうしても、理解せられなければならぬ環境である。そしてこの理解の上に立つて教育者は、自分の教育理想によつて心の裡に描いてゐる目的——これを目的的環境と言ふ——に迄子供をひつぱつて行かなければならぬ。このやうにひつぱつて行く爲には、教育者は現在子供の在る環境に手を入れて、その環境が教育的に見て目的に適ふ様に、環境を整理し、整へてやり、統制しなければならぬ。この様に統制せられた環境をわたくし達は教育的環境と呼ぶのである。かういふ風に考へて來るまゝ、わたくし達は、教育的立場から考へるまゝ、アーマンに倣つて、三種類の環境を區別する事が出来るのである。即ち出發環境、教育的環境、目的環境の三つがそれである。つまり、子供の現在ある出發環境を充分に理解し、これに對する足らざる要素を補ひ、歪められた要素を矯め直し、目的環境に到達し得る様に、教育的環境を創り出して行く事が即ち教育の仕事であり、保育の任務であると言つていゝのである。

然し、現在の所、出發環境の理解といふ事さへも充分に行はれてゐないのが、實狀であると言つていゝ。わたくし達は主な基本問題を考へた後に、具体的環境に就いて、出發環境の理解といふ事を中心に置いて述べて行きたいと思ふ。

保育課程と保育案

目白幼稚園 和田 實

幼児保育の上に、保育案の必要なことは、云ふ迄もないことはあります。之に就いて、近來、保育課程の研究で云ふ言葉や文字を折々耳にもし、眼にもする様になりました。之は、私が豫てから、幼児教育上忌はしい言葉の一つとして居るもので、相成る可くば、法令の上からも、此言葉を除いて欲しいと思つて居るものであります。

保育課程で云へば教科課程で並んで、保育上に於ける學科課程で云ふ様な氣持のする言葉で、幼稚園でも、小學校に於けるが如く、保育項目に對して、嚴格なる課業的豫定案を作る可きかの如き感を起すのであります。

併し、保育は小學校に於ける教授の様なものではありません。小學校の教科課程は厳格な權威のもとに、知識及技能を兒童に傳授するものであります。幼稚園の保育事項は唯、單に、幼児を遊ばすに過ぎないもので、之を小學校に於ける課業的學習と同一視することは、不當であります。

由來、幼児の生活で云ふものは自然生活の範圍を出ないもので、其衣食住の生活で云ひ、其遊戲生活で云ひ、共に人間の自然に營むところの生活であつて、決して、學校に於ける改まつた課業的學習作業と同一視する可きものではありません。幼児が此自然生活の間に、色々な知識技能を習得するのは、所謂、自然學習で、何時の間にやら學習し習得するもので、學校に於ける學習の様に一定の時に、一定の教師によりて人爲的に學習せしめるるものと同一に、視ることの出来ぬものであります。若し、之を同一視しても、差支へないものならば、何も、「保育」と「教育」とを區別して呼ぶ必要はない。

ないので、幼兒教育も、學校教育も、同様な形態の上に、同様な取扱をすることに因つて、行はる可きであります。然う行かぬこころに、各の特殊性があるので、此特殊性を無視することは、畢竟幼兒教育を破壊することになると思ふのであります。

今、改めて遊戲と教科課程との異なる點を列舉して見ます。

一、教科課程は權威ある文化財なり

遊戲は必ずしも然らず

二、教科課程は記憶を要求す

遊戲は必ずしも然らず

三、教科課程は學校の持つものにして遊戯にあらず

幼稚園には遊戯あつて教授科目なし

四、教授作業は教師の權威の下に行はる

遊戲は必ずしも然らず

即ち、幼稚園に行はるゝ作業は主として遊戯として行はるゝもので、決して、嚴格な仕事として行はるゝものではありません。然るに、之を課程と呼び、幼兒に課し命ぜらる可き材料と思はせるのは、徒に、父兄の保育思想を誤らせ、素人をして幼稚園の教育と學校教育との差別を誤らせるに過ぎないここになります。

幼稚園教育の材料である所の遊戯を研究し、玩具や運動具を工夫することの必要なことは、栄養食を研究し、料理を工夫するのと同様に、生活上、教育上必要なことに相違ないのですが、然りて、之が學科其ものを研究するのと同一視する譯には行かぬこことだと思ひます。また、四季折々の時候に適した着物を着せ、住宅を清潔にし、食事の獻立を工夫するこことは、子供に、季節的に妥當な遊びをさせ、子供の悦ぶ作業を與へたり、玩具運動具を適當に、設備するのと同じではあります。之が學校に於ける教科目を選択し、其課程を順序だてるこ同一な事でせうか。衣服と云ひ、食事と云ひ皆其時々々の幼兒の主觀的要素を充たす可きもので、夫れ以外に衣食住其ものゝ側から幼兒に對して要求して居るものは何も

ありません。遊戯も、之等しく、子供の其時々々の主觀的要求に應じてを満足せしめて、其活動を啓發するに都合よきものを工夫供給すべきではあります、遊戯其ものとしては、何等子供に對して要求して居るものではありません。然るに、學校に於ける教科課程は、夫れ自身、文化財産として社會的價値を持ち、之を其まゝ子供に對しても、一種の權威として臨んで居るもので、子供は之に對し、敬虔的に之を尊重するの義務を有するものであります。學校に於ける教科課程は此社界的價値を多分に持てる組織的系統的體形を供へた文化財産を如何なる程度に、子供に傳授して行かうか云ふ所の豫定案であります。故に、此學校の教授豫定案たる教科課程に對しては、子供は一方、文化財其ものに對し、又一方教師の行ふ教授其ものに對し、二重の權威を感じるが當然の成り行きであります。然るに、遊戯や衣食住の自然的生活は斯様な二重な權威で子供を壓迫する様なことは全々無いのであります。幼稚園の幼兒が、幼稚園の保姆に對する態度は、之を家庭に於ける母姉の夫れの如く、唯、生活の共同者、先輩乃至指導者としての親しみ愛着と信頼と恭順とを感ずるだけであります。此家庭や幼稚園に於ける獻立式の豫定案即ち吾々の呼んで保育案と云つて居るもののが、彼の小學校に於ける教科課程案と同一視して、保育課程と呼ぶ可きものでせうか、是は課程なる言葉の濫用と云ふ可きものではないでせうか。吾人は幼兒教育界から其「保育課程」なる言葉を除きたいと思ふものであります。

獻立式プログラムと課業としてのカリキュラムとを混同して、之を同じく課程と呼ぶことは、何う考へても適當なものとは云へません。或人は子供の發達に對して、一定の見透しを着け此見透しに對して適材を配當することが出來れば之を課程と云ふも差支へなからうと云はれますが、是は即ち、獻立式プログラムとレッスンに對するにカリキュラムとを混同することで、私共は之を混同したくないと思ふに對し、或人は混同してもよいと云ふことになるのであります。自然的生活に對する獻立と人爲的教授に對する系統的組織案とを混同して、果して、教育の理法と云ふものが、適當に、整理し施

行せらるゝものでせうか。此點、教育學者の御一考を煩はしたいものであります。

嘗つて、私が幼稚園設立の願を府に提出した時に、矢張此課程のこゝに就いて、係の役人から、課程を明確に記入する様にご注意され、幼稚園の保育事項は小學校の學科目の様なものだからと云はれて、争つたことがありましたが、未だに斯く信じて居る人は相當に多い様であります。併し、保育は自然的生活其もので、之を教育的に誘導しようとするものであるのに、學校は文化財の教授に因つて、意識的に人爲的に教導しようとするもので、根本的に性質の異つて居るものであります。此誘導的保育豫案ご教授せんとする文化財産の組織案ごを混同することは何ごしても無理なこゝではあります。

尤も、保育案にも近來は系統的保育案ごか綜合的保育案ごか、色々と新名稱を冠せた保育案がありますけれども、之ごとも、案の内容即ち子供の自然生活其ものに、確然たる組織系統のあるのではなくて、寧ろ、保育者其人の心構に一定の系統を立てたもので、云はゞ、保育者其人の便宜のものに過ぎません之を「保育課程」など、權威呼ばはりするのは不合理的のこゝであります。

又、或人は、彼の折紙ご稱する手技の如きは、數百種の細工があるが、之は十數種の系統にまごめるこゝが出る。美麗式の折紙の如きは一層、系統的である。其他、粘土細工でも、貼紙細工でも、刺し紙でも書き方でも、何れも、皆、簡より繁に、單より複に、一定の系統を立てるこゝが出来る。此系統を立てゝ進むことは必要だと主張される。併し、吾等の見地、即ち、幼兒の自然生活を攢亂せず、其遊戲上に於ける自由の領域を或る可く擴大せんことを主張するものから見れば、是は單に、保育者其人の心構への上に、或便宜を持ち來たすこゝを條件として、所謂、保育課程を幼兒に強要するもので、幼兒の自然生活を攢亂して、其遊戲の自由を抑壓するものに非ずして何でせう。

始めにも、申述べた様に幼兒の保育は學校の教授ごは全然其性質を異にしたもので、此區別は一般教育上、必要なこゝ

であり、何時迄も、保存さる可き區別であります、近來、小學校の教育が、デュイーの主張に因つて、作業化され、之が、獨逸に於ける作業的行動主義の教育となつて、我國にも輸入せられ、作爲的生活主義の教育となつて、子供の生活を云ふことが八釜しくなり、遂に、小學校低學年の教育が、其教科を遊戯化して、恰も幼稚園の夫れの如き状況を呈するものがある様になりました。是は一概に、悪い傾向だとは申されませんが是を徹底的に實行しては如何なものになるでせうか、恐らく幼稚園と小學校との區別はなくなるでせう。勿論、小學校の低學年は昨日迄は幼稚園の子供であつたのですから、凡ての仕事は、未だに、興味を主とするに、慣れて居て、嚴格な作業的態度には成り切れないでせう。故に最低學年の一年間位は凡ての學科を多少遊戯化して、幼稚園的に取扱ふことが必要であります、併し是は何時迄も守る可き態度ではありません。漸次、是は厳格な作業的學習に導かねばならぬ筈だと思ひます。甚證據には幼稚園の生活時間は五時間以上もあるのに對して、小學校一年生の夫れは僅に二時間に限られて居るのを見ても判ることだと思ひます。幼稚園の生活は自然生活であるから、其生活時間に一定の制限のないのは當然でありますが、小學校の生活は人爲的強要的に一種の權威を以て、壓迫して居ますから、逆も長時間に亘つて、生活せしめらるゝものではないのであります。從つて、小學校の授業が、多少幼稚園の遊戯生活に比して窮屈な厳格な所があるのは當然のことであると思ふ、同時に、幼稚園として、之に模倣する様なことがあつてはならぬと思ふのであります。此區別は永久に存置す可き區別で、互に相侵すことのないのが、教育上必要なことではないかと思ひます。

此間も、或處で、大に、論じたござでしたが、幼稚園の保育と小學校の教育とを、充分に能く連絡せしめねばならぬ。其爲めには、幼稚園最終の保育課程と小學校一年生の教科課程とは其内容上、互に相侵さぬ様にし、其取扱方に於ても、能く相通じて、教師態度を等しくせなければならぬと主張する人がありました、私は之を半可通の議論として、大に、

異論を唱へました。今其理由を少し、述べて見ませう。

一、幼稚園の保育材料ミ小學校の教授材料ミ假令、同様なものがあるとしても、其取扱方は、全然異なるものであるから、何等の不都合を生ずる筈はない。即ち、一方では之を興味本位の遊戯材料ミして取扱ふに對し、一方は之を厳格なる教授材料ミして課するのであるから、其之に臨む態度は、全然異つて居るので、若し、教授者其人に此區別を判然ミ承知する認識があるならば、少しも困ることはない筈だミ思ひます。是は私共の記憶する經驗上の事實で想像ミはあります。之を不都合ミ感ずるのは教授者に、此理解ミ技倆ミが、不足するからで、少し経験のある人ならば何でもないこだミ思ひます。此考へは、單に、私一個の経験ばかりではなく、老練な人からも屢々聞くことの事実であります。

二、教師の態度が幼稚園の保育ミ小學校の授業ミに於て差異なきを可ミするとの議論は、是は、前にも述べた様に、兩者相距るミ遠からざる故に、多少之を加減按配するミは必要ではあるけれども、元々、教育態度の異なるものであるから、却つて、お互に引きずらるミこのない方が必要で、幼稚園に於ては何處迄も興味本位の自然生活を主ミとして進み、小學校に於ては、漸次に文化財傳授の本來の態度に誘導し教導し行く可きものであるミ思ふのであります。

以上の理由に因つて、幼稚園の保育案ミ小學校の課程ミの連絡は内容其ものを、彼是云ふよりも、其取扱方を云爲す可きもので、畢竟、教育者其人の教育的見識ミ授業上に於ける技倆ミに依存し、教材其物にはないミ云はねばならぬのです。之を要するに、幼稚園の保育案は幼兒の自然生活上に於ける一種の獻立表であつて、其内容に於ても、獻立其ものも、共に小學校教科課程の如き權威を持つものではなく、兩者は全然其性質を異にするものであるから、之を混同せざる様に、其名稱なミも、同種類のものミして呼ぶミなく、全く別種の取扱を要するミことを、明示す可きで、従つて、保育案は單に保育案ミ呼ぶを至當のミこゝ思ふのであります。之を保育課程なミい呼ぶミこは一刻も早く廢したいものであります。

子鼠さんと玉蜀黍のお話

武田 雪夫

さあく、これは、小さな小さな、かはいい子鼠さんと玉蜀黍のお話ですよ。

まあく、よいお天氣です。小さな小さな子鼠のチュウ助さんが、畠の中の道で遊んでるました。

あちらの方へ、チヨロ～チヨロ、こちらの方へ、チヨロ～チヨロ。チヨロ～チヨロ～、道を走つたり、小さい石をこびこびしたりして、ひざりでおとなしく遊んでるました。

さうするごとく、むかふの方から、お百姓さんの小母さんが籠の中へ玉蜀黍を一ぱい入れて、かついで来ました。
お百姓さんの小母さんは、だんく子鼠のチュウ助さんの方へ歩いて来ました。

あゝ、道のまん中に石があります。おやおや、お百姓さんの小母さんは、その石につまづいて、よろくよろけました。

「あー、あい、あいよ。」

そのはすみに、籠の中から、玉蜀黍が、一本コロリンと道に落ちました。そして、子風のチュウ助さんの目の前にころがつて来ましたから、子風さんは、びっくりしました。

でも、チュウ助さんは、一生けんめいに大きな聲を出して、

「チュウ～～、小母さん、落ちましたよ。玉蜀黍が落ちましたよ。チュウ～～チュウ。」と言ひました。
する」小母さんは、

「はい～～、誰ですか。いらっしゃい。ありがとうございます。」と言ひながら、そこへ籠を下ろしました。そして、一休しながら、

「――おや～～、子風さんですか。まあ～～、ひりりだ。おしなしく遊んでるまちね。それでは、どう褒美に、この玉蜀黍を一本あげませう。さあ、ついでに皮をむいて置いて上げませう。はい、――ほウら。」

といふ言つて、道に落ちた大きな玉蜀黍を上手に皮をむいてくれました。

チュウ助さんは、ほんとにうれしくなりました。あまりうれしくて、「ありがとうございます」と言へなくて、ただ、かはいゝ聲で、

「チュウ～～、チュウ～～。」といふばかりいました。

お百姓さんの小母さんは、まだ、玉蜀黍の入つた籠をかついで、

「子風さん、はいぢやん。」と語つて、むかふの方へ、うんへへ行つてしまひました。

チュウ助さんは、ひこらほつちになるこ、玉蜀黍をよく見ました。まあ／＼、大きな大きな玉蜀黍ですこい。おいしさうな、お豆のやうな實が、一めんについてるます。

そんなに大きな玉蜀黍では、小さな小さな子鼠のチュウ助さんには、シテも持てませんね。それでは、さら／＼一つ、こゝで食べて見ませう。チュウ助さんは、玉蜀黍のまん中をかじり出しました。

ボリ／＼ボリ、ボリ／＼ボリ。

まあ／＼、おいしさうな、おいしさう。

ボリ／＼ボリ、ボリ／＼ボリ。

チュウ助さんが、ひこりで、一生けんめいに玉蜀黍を食べてゐます。むかふの方から誰か来ましたよ。

まあ、誰でせう？

あや／＼それは、お友だちの子鼠のチュウ子さんでしたよ。

チュウ子さんは、チュウ助さんを見つける。

「今日は、チュウ助さん、そんなこゝで、何をしてゐるの？おや／＼、よいものをかじつてゐるのね。ま

あ、どうしたの？わたしにも、少しかじせて下さ／＼な。」

さう言つて、チュウ助さんのそばへ來ました。

チュウ助さんは、

「はいへへ、これは、たつた今、お百姓さんの小母さんから貰つて、ひたりで、かじつてゐたらしいです
よ。」こんなに大きな玉蜀黍です。さあへへ、一しょに食べませう。あなたは、こちらの先の方を、おあがり
なさい。」

かいの「話つて、まだ、玉蜀黍のまん中を、ボリ／＼、かじり出しました。

かいの「あらり、チユウ子さんは、大へんによろこんで。

「かいへへ、かじつて、ありがたう。」(い)話ひながら、小さな小さな、かはい、歯で、玉蜀黍の先の方を、コリ／＼
コリ／＼、かじり出しました。

「ああへへ、おこしらうり、おこしらうり。」

ほら、チユウ助さんが、玉蜀黍のまん中をボリ／＼ボリ／＼。
ほら、チユウ子さんが、玉蜀黍の先の方をコリ／＼コリ／＼。
一ひきで仲よく、ボリ／＼ボリ、コリ／＼コリ。

するが、むかふから、また、誰か來ましたよ。

まあ、誰でせう。

おやへへそれは、お友だちの子鼠のチユウ吉さんでしたよ。

チユウ吉さんは、チユウ助さんとチユウ子さんを見つける。

「今日は、チュウ吉さんとチュウ子さん。そんなところで、何をしてるの？おや～、よいものをかじつてるのね。まあ、どうしたの？ほくにも、少しがじらせて下さ～よ。」

さう言つて、チュウ助さんとチュウ子さんのそばへ來ました。

チュウ助さんは、

「はい～、これは、たつた今、お百姓さんの小母さんから貰つて、チュウ子さん～～しょん、かじつてゐたところですよ。こんなに大きな玉蜀黍です。さあ～、一しょに食べませう。あなたは、こちらの、わがの方をおあがりなさい。」

さう言つて、自分は、また、玉蜀黍のまん中を、ボリ～～ボリ～～、かじり出しました。チュウ子さんも、玉蜀黍の先の方をコリ～～コリ～～、かじり出しました。

そこで、チュウ吉さんも、大へんよろこんで、

「さう、さうもありがたう。」と言ひながら、大きなく～丈夫な歯で、玉蜀黍の、も、この方をガリ～～、かじり出しました。

「まあ～～、おいし～～、おいし～～。」

ほら、チュウ助さんが、玉蜀黍のまん中をボリ～～ボリ～～、ボリ～～ボリ。

はいチュウ子さんが、玉蜀黍の先の方をコリ～～コリ～～、コリ～～コリ。

そら、チユウ吉さんが、玉蜀黍の、も、の方をガリ／＼ガリ／＼、ガリ／＼ガリ。

ボリ／＼ボリ、ボリ／＼ボリ。

コリ／＼コリ、コリ／＼コリ。

ガリ／＼ガリ、ガリ／＼ガリ。

ボリ／＼、コリ／＼、ガリ／＼。

ボリ／＼、コリ／＼、ガリ／＼。

はい、それでは、これで子鼠さん、玉蜀黍のお話は、おしまひです。

結核豫防對策と虛弱兒童養護問題

牛 島 隆 則

緒 言

從來家系病であつた結核が、最近一躍して社會病となり、國民病となり、今や國病にまで進まんこし、吾人の集團生活を脅威するもの結核より甚しき者はない。從て結核豫防が社會衛生上重大なる地位を占むるに至つた。元來結核の蔓延は產業革命後の問題にして、近代の生活様式が獨り工場のみに限らず、學校、役所、交通機關、娛樂施設、其他何れの方面も結核感染の機會を與へ、加之一般生活の増大は益々之が發病の誘發を多からしむるに至り、今や施政者も苦心に苦心を重ね、専門家も研究に研究を積みつゝあるも、如何にせん今日の學術進歩の程度に於ては、安心すべき豫防法、治療法若くは醫藥等を發見するの運びに達し居らざる事は、誠に國家將來の爲め寒心に堪えざる次第である。

第一 結核病とはどんなものか

結核は結核菌云ふ黴菌が普通空氣の媒介による傳染病にして、彼のコレラ、腸チフス、ペスト等の如き急性的傳染病にあらずして、空氣中に飛散せる結核菌が、何時こはなしに知らずくの間に吾人の體内に入るるのであるが、直に發病するものでもなく、其間幾月も幾年も一進一退、長きは幾十年に亘る者もある。即ち結核菌が空氣と共に體内に浸入するや氣管や、淋巴管を通過して肺臟に達し、こゝに一の根據地を作り、漸次其周圍に菌の繁殖を企圖するのである。之に對し人體は淋巴液を出して、菌の進出を妨害し、又白血球が増加して菌を滅殺せんとするのである。此の際身體が強健

で栄養状態が良好なれば、殆んど結核菌は體内で繁殖の餘地なく潰滅に歸するものなるも、不幸にして抵抗力が衰へて居る場合には、肺臟の根據地より各方面に進出するのである。然して最も危険なるは所謂結核發病期である。其時期は少年から青年に移る頃、即女性では十五歳から二十歳の間、男性では二十歳から二十五歳迄の間が結核死亡の最も多い危險時代である。故に結核豫防の重點は、結核菌の襲撃に對し、青年時代を如何にして發病から、完全に防禦し得るかの研究が最も必要である。

然らば結核に侵された以上、全然全治は困難であるか云へば、療養の如何によつて決して困難なものではない。今日まで各國共之が療養に關し幾多の苦心を嘗め、種々の療法が研究されつゝあるも、要するに自然療法が所謂結核療法の根本にして、體内の栄養を充たし抵抗力を増進し以て自然の治療をはかるにある。要するに自己の病氣を治すものは、自己の力以外にない云ふ強い心念を養成する事が必要である。

第二 結核蔓延の狀態

今日結核の蔓延狀態は、如何なる程度に進みつゝあるか、其概要を調査して見るさ、結核患者の實數を計算する事は元より困難なるも、大體一ヶ年の結核死亡數の十倍を患者とする説に従へば、我國一ヶ年の結核死亡者數を約十三萬人みて、結核患者は約百三十萬人となる。即ち大凡五十人につき一人、十戸に一人の割合となる。従つて我國の結核蔓延の現狀は全く怖るべき者で、若し之が蔓延を放任すれば、結核は國民間に浸潤して遂に手のつけ様がなくなり、其結果國力は衰へ、國家の前途大に憂慮すべき結果を來す重大問題である。

この百數十萬人の結核患者の一部份は入院し、其他は入院せず、家庭にあつて療養してゐるも、正しき豫防知識を持たず、病毒を感染させ新らしき患者を養成しつゝあるので、一人の患者が一代に一人や三人の新患者を作るこすれば、結核

患者が二倍や三倍に増加する事は雑作もないものである。

試みに世界に於ける結核患者消長の状況を討検するに、二十數年前に於ける英國は、人口一萬人に對し二十人以上であったが、今日では八人内外に、獨逸は七人に減少してゐる、有名なる結核の多い佛國ですら、三十數年前は人口一萬人に對し三十五人が、今日では十五人に減少し、伊國も同様約半數以下に減少してゐる。其他瑞典諾威等の小國ですら三十數年前には人口一萬人に對し三十人内外の者が、今日では十二人から十六人内外に減少し、米國の如きは約三十年前には人口一萬人に對し二十人内外が、今日では僅に五人に減少してゐる。然るに我國では三十年前には人口一萬人に對し十五人が、近年は約十九人に増加し現在も尙減少の傾向すら見えず、實に寒心に堪えざる狀態である。

第三 歐米の結核豫防對策

歐米に於ける結核患者が、前述の通り逐年減少しつゝある事は、要するに結核豫防對策の適當なるに歸著するのである。依て結核豫防の實績顯著なる獨米の豫防對策の概要を、此方面の權威者たる岩佐醫學博士の視察談に徵し、世界主要國に於ける結核豫防の概要を窺ふに、大體獨米は左記の

一、結核感染豫防策

二、國民の健康増進策

三、一般疾病防止策

四、社會救濟施設による貧民救濟策

の四つの事項を、結核豫防の根本對策として、徹底的に實施し以て結核の撲滅を企圖してゐる様に考へらるゝので、其概要を記述すれば

一、結核感染豫防策

結核の直接豫防策として、結核患者の收容機關の擴大、即ち病床を徹底的に増設して結核患者を隔離するのである。茲に二、三ヶ國の結核病床數を参考に擧ぐれば、

米國では約七萬九千床で結核死亡一〇〇に對する結核病床數は約一一四床である。

獨逸では約五萬床を有し結核死亡一〇〇に對する結核病床數九十床である。

英蘭及ウエールスでは約二萬六千床を有し結核死亡一〇〇に對し病床數約六十六床である。

スコットランドでは結核死亡一〇〇に對し病床數約七十七床である。

我國では結核病床數約九千餘床で結核死亡一〇〇に對する結核病床數約一〇床に過ぎないのである。

彼等の國に於ては病院に密接の連絡を保持して活動せる者は結核相談所にして、獨逸の如きは一家族に結核患者を發見すれば、全家族を召喚して嚴重な健康診斷を行ひ、「レントゲン」の撮影をなし、結核發病の有無を精査す。若し發病患者あれば直に入院手續をなすは勿論、健康診斷の結果、家族の者に異状なしき認めても、半年後に再び健康診斷を受ける義務を與へ、殊に十四歳以下の子供は、最初の健康診斷の後、半年毎に一ヶ年間健康診斷を受ける義務を附與してゐるのである。

斯くの如く結核患者の家族の健康診斷を強制的に行ふのみならず、一度結核で入院した者は、治癒退院しても半年後に、再び健康診斷を受ける義務を與へ、其の後又一ヶ年を経て健康診斷を受けねばならぬ規程になつて居る。殊に十四歳以下の子供が結核に罹つた場合は、全快退院しても、満二十五歳に至る迄一定の期間を定めて診斷を受けねならぬのである。我が國の如きは全快退院した者に就て、其後如何なる經過を取つてゐるか、健康診斷を行はないのである。總て我が國の結核豫防の實行は、極めて不徹底、微溫的で真剣味が足りないと思ふ。

米國の結核相談所の事業は、單に訪問してくる患者を診断して、傳染豫防法、消毒法、養生法等を教へ衛生思想を與へるが如き消極的でなく、進んで街頭に進出し、積極的に結核豫防宣傳の講演會、結核豫防パンフレットの配布、活動寫眞による宣傳、ラヂオ利用、衛生展販會等を絶えず行つて市民に呼びかけ、其の自覺を促し、市民に結核に對する常識を植付ける爲めに、目覺しい努力を續けて居るのである。猶積極的に結核感染豫防策として行つてゐる事業は、結核に罹つた女から生れた初生兒は、生れるごとに隔離してゐるのである。而して一旦隔離するごと、親ごと雖も絶対に面會を許さない規定になつて居る。我國に於ては未だ結核家族の乳幼兒隔離事業の見るべき者ないが、結核感染豫防事業の一つとして、將來發達せしめなければならない事業である。殊に無產階級の家族に於ては、非衛生的で多數の家族が雑居して居るのであるから、乳幼兒は濃厚な感染を受け易き危險状態にあるも、彼等は自費で愛兒を隔離する資力に乏しく、如何ごともし難いのであるから、結局貧困家庭の乳幼兒を隔離保護するにあらざれば、實際的感染豫防の效果は舉らない譯である。

一、國民健康増進策

獨逸の如きは財政窮乏にも拘らず、國民の健康増進の爲めには、國家は多額の國帑を支出しつゝある有様で、國力の充實は先づ國民の健康からこの考へから、勞働階級や無產階級の住む非衛生的住宅を、明るい住み心地のよい家屋に改築し、又別に明るい衛生的な失業者住宅を、市の郊外に建築し、其住宅地には娛樂場として、種々の運動器具を備へ、幼稚園、大浴場、大洗濯場、診療所、賣店、其他あらゆる生活に必要なる設備を、整備せる理想的の建築物がある。

又庭園なき都會人の爲めに、中產階級の者が週末の一日を田園生活に過す爲め、市より百坪内外の畠を借り、簡単な小屋を建築し、果樹、草花、野菜等を植ゑ、終日新鮮なる日光ごと土に親んでゐる。

各商店は商店法により、毎日午後七時以後は休業、毎日曜日も休業するから、從業員は毎日休業娛樂修養の時間を得、

從て比較的虛弱者も毎日過勞する事なく勤務し、虛弱者の結核の發病を未然に防ぐ上に可なり效果を認められてゐる。

其他虛弱兒童養護所は、獨逸全國に三百十一ヶ所、其の收容力は三萬三千餘名にして、放つて置けば發病して結核になる者を收容してゐるのである。其狀況は末尾にベルリン市的小學校につき詳細述べる事にする。

三、一般疾病防止策

一般疾病防止の爲めには、米國は健康相談所が主となつて、結核豫防の場合と同じく國民に疾病防止の知識を普及する爲め、活動寫真、講演、疾病防止に關するパンフレットの配布、ラヂオ利用、時々衛生展覽會を開催する等、年中活動してゐる。又小學校の校醫は毎週一回宛、學校の虛弱兒童の體格検査をなし、學校と家庭とに保健に關する必要な注意を與へ、其の時の狀況を「カード」に記入し、又訪問看護婦も時々虛弱兒童の狀態を調査し、之を校醫に報告し、若し治療の必要ある者は、家庭に注意するのみならず、學兒の健康恢復の爲め、適當なる指導をなせり。之れを我國の校醫の如く、新學期毎に一回宛の體格検査を形式的に済まし、放任して置くのと大なる相違があると思ふ。

尙ほ獨逸ではナチス政權を掌握してより斷種法を制定せり。即ち惡性遺傳疾患のある者は法律によりて男女を問はず、斷種法を斷行して其の子孫を根絶し、以て民族改良を行ひつゝある。

四、社會施設の擴充による貧民救濟策

米國は現在失業者約九百萬人内外に減少し、獨逸も約百六十萬人に減少せり、我國の失業者は三十五萬内外で、結構な様に見えるが、國民の實際生活の内容を見ると、就職して居ても生活の出來ない人が無數にある。況んや一度失業すれば、自己の所有する財産を費ひはたし、最早や「ルンペニ」になり、住む家もない悲慘な狀態に陥るのである。然るに米國は百萬人の失業者あつても、又如何なる貧民でも善良なる國民である限り、衣食住に困る人間はないのである。要するに

國家は善良なる國民に對しては、衣食住だけは保證してゐるのである。

労働者階級の家庭を救濟し、労働を容易ならしむる爲め、無料で兒童を預る託児所を設け、若し家庭の兩親が結核で入院すれば、託児所は兒童を引き取つて養育してくれるのである。又都市の郊外には失業者の住宅を建築し、畠を貸し之に果樹野菜其他の苗を無料で與へ農業を營ましめ、失業者は農業の傍、家畜を飼ひつゝ悠々として、就職口のある迄待機する云ふ有様である。これを失業者のジーデルングと稱して、ベルリン郊外に現在四十三ヶ所の大部落が出來てゐる。斯る施設は獨米の結核が近年に至り急激に減少しつゝある一つの有力なる理由であると思ふ。

結核は傳染病であるが、他の意味から云へば一種の貧民病である。外國の例を見るに彼の紐育市にて最近の調査によれば、比較的貧民の多く住んでゐる町では、人口十萬に對し結核患者四百四十人であるが、紐育市全體の平均は人口十萬に對し百三十一人である。又結核死亡は貧民の住む町では人口十萬に對し百九十六人であるが、紐育市全體の平均は人口十萬に對し僅に五十人である。

之を我國の大阪市最近の調査によれば、大阪市全體の平均の結核死亡は、人口十萬に對し二百六十八人で、紐育市に比し約五倍半の高率である。然るに大阪市の北區に於ける有產階級の多く住む町では、結核死亡は人口十萬に對し百十一人で、東區では、中產階級以上の多く住む町で、人口十萬に對し僅に七十五人、八十八人、百十五人である。以上の事實により見れば、結核は有產階級に少く貧民階級に多い事が明かであるから、一種の貧民病と稱するも過言でない。故に衣食住に困難し、非衛生的住宅と粗食に甘じん、心身の過勞を考慮する暇のない貧民を救助せんとする獨逸に於ける貧民救濟の諸施設は、確に結核の發病を減少せしむる上に、大なる效果を擧げて居るのである。

第四 我國に於ける結核豫防に對する施設の概要

我國の現状では結核豫防の知識に乏しく、結核豫防の責任觀念が薄きのみならず、從來結核は不治の病として、死の宣告を受けたかの如くに怖れ、之に罹れば不名誉として之を隠匿し、以て病毒を蒔き散らし、知らぬ顔して不徳を敢えてする者が少くないのである。元來結核豫防は公衆衛生上重大なる問題であるに拘らず、今日迄結核豫防を個人に任せ過ぎた結果は、現在の慘状を呈して居るのである。然して我國に於ける結核豫防の社會施設としては、目下大體次の如き事項が擧げられてゐる。

- 一、結核豫防相談所
- 二、結核療養所
- 三、結核豫防知識の普及
- 四、虚弱兒童養護施設
- 五、結核豫防國民報告
- 六、結核豫防法
- 七、栄養改善、住宅改善、過勞防止

結核豫防相談所にしても、施設甚だ不充分なるのみならず、國民の大部分が結核豫防に關する公衆的觀念に乏しき結果、之を利用する者少なく、要は國民が正々堂々之を利用する様に指導誘引する事が必要なのである。

結核療養所にても、其施設は僅少、従つて病床數も前述の通り甚だ貧弱にして、病毒感染上誠に寒心に堪えざる次第である。我國にて社會施設に最も意を用ひつゝある大阪市に就て例を示せば、大阪市立刀根山病院(結核療養所)は、收容患者定員七百五十名にして、最も完備せる施設を有し、申込希望者は多數停滞し、十一年度の如きは五百數十名の停滯者

を生じ、最長待月數七ヶ月以上に達し、其間入院手續を完了しながら待ち切れず待機中申込を取り消す者約四割に達し、又自宅にて死亡する者全數の約二割に及びたり云々。依て更に定員を千五百人に増加する爲め擴張計畫なり云々。

米國では患者の委託制度が發達してゐるから、市立病院に收容し切れない時は、一定の料金を支拂つて患者を私立病院に委託し、收容力に彈力を有するのである。我國に於ても設備完備せる療養所に對しては、委託制度を採用し、以て結核患者の幸福増進を企圖し、傳染の機會を可成減少せしむるの必要を痛感する次第である。

又結核豫防知識の普及にしても甚だ不充分であり、虛弱兒童養護施設も關西方面では、大阪市に六甲郊外學園、神戸市に再度山小學校あるも、收容力は至て僅少にて問題にならず。其他にも貧弱なる若干の施設あるに過ぎず。最近大阪市並に東京市には、稍々有力なる該施設が企圖せられたこの事であるが、我京都市の如きは昨年度之が計畫はあつたが、豫算關係上中止の狀態である。

其他結核豫防に對する法律も、其内容甚だ消極的の事項のみで、其效果は薄弱にして、其他の施設などは論ずるに足るものなし、今少し社會も國民も正々堂々結核を取扱ひ、我國情に即した實行的施設の實現を期し、以て亡國病たる結核の撲滅を企圖する事が、國家の隆盛を期する基礎である事の理解を、國民一般に徹底せしむるの必要を痛感するのである。

第五 京都市兒童の健康狀態

京都市に於ては虛弱兒童養護問題に對し、相當の考慮を拂ひ來れる關係上、最近に至り郊外に小規模の二、三の郊外學園的の施設を見るに至れるも、尙一段の積極的對策の實現を切望するのである。我京都市は昭和十年度本市小學校尋常第一學年虛弱兒童の調査検診を施行した。其結果の概要を記述し、以て本市の虛弱兒童一般狀態を推知するの参考に供したいのである。

尋常第一學年全兒童二萬六百二十名中、調査の結果虛弱兒童一千四百十四名を検診せり、即ち虛弱兒童は總數の約十二%に相當するのである。今虛弱兒童一千四百十四名を各部門に分ち、調査されたる結果の概要を左に列記すれば

其一 健康基本調査の結果

調査虛弱兒童數 二千四百十四名

一、食物の關係

(一) 食物に好き嫌ある者の總數 一八二〇名(七五%)

内特に甚しい好き嫌ある者 九〇九名(三八%)

(二) 好き嫌のある食物の内嫌の甚しいもの

1、野菜の嫌なもの 八四二名

2、魚肉の嫌なもの 四二五名

3、獸肉の嫌なもの 二四〇名

4、魚肉獸肉共に嫌なもの 二三六名

5、獸肉、魚肉、野菜共に嫌なもの 一一七名

(三) 食物に好き嫌なき者の總數 五六六名(二四%)

二、間食の關係

(一) 間食の量

1、多量と思はるもの 五四二名(二三%)

2、普通量と思はるもの 一二四二名(四七%)

3、少量と思はるもの 六九五名(一九%)

(二) 間食の時間

1、多量と思はるもの 二千四百二十四名

2、普通量と思はるもの 一千四百十四名

3、少量と思はるもの 五百九十六名

三、時間の不定なもの 一六四一名(六八%)

2、時間の一一定あるもの 七三七名(三三%)

(三) 間食の種類

(一) 好き嫌のある食物の内嫌の甚しいもの

1、甘いものを好んで食するもの 九六二名(四〇%)

2、香ばしいもの及果實等を食するもの 八七九名(三六%)

3、前二者共に好んで食するもの 五三八名(二三%)

(二) 衣服の關係

(一) 厚着すると思ふもの 一〇九一名(四五%)

(二) 普通着及薄着と思ふもの 一一八六名(五三%)

(三) 冬期に肌着を着換へすに就寝するもの 一四七〇名(六九%)

(四) 生計の關係

(一) 生計良のもの 一八五名(八%)

(二) 生計普通と思はれる者の内

1、上等と思はれるもの 三一〇名(一三%)
 2、中等と思はれるもの 一一五〇名 四八%
 3、下等と思はれるもの 一九〇名(二一%)
 (三)生計不良と思はれるもの 一九〇名(八%)

其一 小兒科検診の結果

被検診兒童數 一六六九名

(一)胸部呼吸音に異状あり認められるもの 一二%
 (二)ビルケ氏反應陽性者 一%
 (三)心臓に異状あり認めらるゝもの 一七%
 内異状の高度なるもの 三%

(四)頸部淋巴腺腫脹あるもの

六九%

其三 胸部レントゲン寫真検査の結果

一四一九名

三九%

(一)異状なきもの
 (二)日常生活に注意を要する状態のもの
 (三)特別に養護を要する状態のもの

二〇%
 二〇%
 二〇%

輕 度 中 等 重 症

3、膝反張
 1、肘外翻
 2、

○六%
 八%
 四〇%

被検診兒童數

其四 整形外科検診の結果

一五九六名

(二)結核性脊椎炎あるもの

○・八%
 一・二%
 一七%

1、確症あるもの

1、佝僂病
 2、疑症あるもの
 (二)佝僂病
 (三)畸形及運動機能障碍を有するもの
 (四)虚弱なる體質の結果なり考へらるゝ疾患

七%

1、時反張(中等度以上)
 1、時反張(中等度以上)

八%
 八%

		レントゲン寫眞の結果			ビルケ氏反應	
		陽性%		陰性%		
内	右	度	度	度	陽性%	陰性%
重	中	等	等	等	陽性%	陰性%
(一)異状なきもの	三七	二五	六八%	一二	三二%	七三%
(二)日常生活に注意を要する状態のもの	一九八	二七	三四%	二二	一六%	二三一
(三)特別の養護を要するもの	三一五	八四	二七%	一九八	一八%	二八一
(一)日常生活に注意を要する状態のもの	八〇	三二	一六%	一九八	一八%	三五〇
(二)ビルケ氏反應陽性者	五三	六六%	一六六	六六%	一八%	六二
(三)心臓に異状あり認めらるゝもの	六六	八四%	二八一	二八一	一八%	二八八
(四)頸部淋巴腺腫脹あるもの	六六	八四%	二八一	二八一	一八%	二八一
被検診兒童數	一五九六名					

扁平足(中等以上)

一一〇%

(三) 鼻炎

一三三・八%

其五 耳鼻咽喉科検診の結果

一五三五名

(四) 町脣栓塞

一二一・四%

被検診兒童數

一一〇〇名

(一) 扁桃腺肥大

三四・四%

(五) 蓄膿症

一四・一%

(二) 腺様增殖

一四・七%

(六) 慢性化膿性中耳炎

四・〇%

以上の中、胸部レントゲン寫真検査の結果によれば、第一學年生中に特別に養護を要する状態にある者、約八〇〇名にして、其内中等程度の者百九十三名、重症の者百二十名に達し、寒心に堪えざる状態である。

次に京都市兒童院に於て、昭和九年市内十三ヶ小學校に於ける、各年級の虛弱兒童二百十五名の検査の成績によれば、其内結核性患者百二十五名に達し、總員の約五割八分強に相當せる驚くべき結果を呈せるのである。目下斯る状態にある可憐の兒童を、他の健康兒童と同一組に編入し、何等特別の養護法を施す事なく、健康兒童と同一取扱法を採用し來れる事は、特別養護を要する状態に置かれてある虛弱兒童に對し誠に氣の毒に堪えざる次第である。

第六 結核豫防對策として虛弱兒童の養護施設

歐米に於ける結核豫防對策は、要するに結核は一種の傳染病であるから、結核の感染を豫防せんとする對策と、結核の發病を未然に防止せんとする見地から、立案せる對策の二つである。此の二大對策は何れも結核豫防上有效なるに相違なきも、我國の情勢殊に財政上の關係からして、我國の對策としては一つの内何れの對策が重要であるかと云へば、結核の發病を未然に防止する見地から豫防對策を立案する事が、尤も適切にして有效であると信ずるのである。

勿論他人への傳染を防止する爲め、患者を隔離する爲め病床を増設する事は必要なるも、結核が國民病となつた以上は、少々の病床を増設しても、結局國民を結核の感染から未然に防止する事は、我國今日の財政では困難な問題である。

從て結核は傳染病なりこの見地から立案せる對策は、結核豫防の心髓に觸れた對策とは云へないのである。故に結核豫防の目的を達成せんが爲めには、結核の發病を未然に防止する施設に俟つ事が尤も必要なのである。

然らば獨米に行れつゝある結核豫防上貧民救濟の社會施設の充實は、必要にして立派な名案なるも、我國の今日の狀態では、到底實行不可能である。要は實行可能にして且つ最少の經費で最大の效果を擧げ得る對策を立案する事が、我國の國情に即した對策である。依て今日我國の結核豫防對策は、人工免疫による發病豫防對策が唯一の方法を考ふ。人工免疫法なれば實行容易なるも遺憾ながら未だ完全の域に達し居らざる次第なれば、専門家が將來極力之が研究の完璧を期して國家に對する忠勤を抽でられん事を切望する次第である。

次に結核の發病豫防上必要なる施設は、所謂虛弱兒童の爲め都市の郊外健康地に適當なる養護施設をなす事である。之が目的は要するに、結核菌の襲撃に對する抵抗力を強め、如何なる強烈な結核菌に對しても、抵抗し得る丈の準備工作を施すのである。抵抗力が強ければ結核菌に感染しても發病せず、そのまゝ自分の知らぬ間に治つて了ふのである。元來兒童の體質は成人の體質と異なり、善くも悪くも容易に變化し易き者なれば、之を保護し特殊の健康増進を行へば、短期間に容易に體質を改善し、以て健康兒となり抵抗力を増進する事が出来るのである。是れが即ち結核發病豫防上尤も緊要な事業である。自分は永觀堂幼稚園にて、約七ヶ年弱の經驗に徴しても、幾多の虛弱幼兒を健康第一主義の許に室外保育に重點を置き、幼兒中心の保育を施し榮養食を給し來れる結果、虛弱兒も短期間に健康兒に更生し、小學校入學後も益々健康を保持しつゝある幾多の實績を有するのである。

最近新聞雑誌等に、我國壯丁の體格は逐年劣弱に傾きつゝある事を報道しあるが、洵に國家の前途深憂に堪えざるのである。即ち徵兵検査の際の不合格者は、壯丁千人に對し大正の末期には二百五十人の者が、最近は四百人に増加し、殊に

東京、大阪の如き大都市は、増加の一途を辿るのみである。又千葉、鳥取、靜岡縣等の如きは、大體以前は不合格が非常に少なかりしが、近來は著しく不合格を増加し、殊に青森縣の如きは昔は非常に良い成績の處が、最近では日本一の悪い縣になつたのである。斯の如く身體虛弱にして物の役にも立たない青年が逐年非常な勢ひを以て増加する事は、國家の將來に於て壯丁合格者を得る能はざるの運命に到達しないとも限らないのである。

殊に不合格者の多いのは、第一に學生次に職工、店員、給料生活者の順に置かれてあるが、元來學問すればする程、筋骨薄弱となり、國家の役に立たなくなる云ふ現状は、何か教育上に大なる缺陷ある事に氣付かないのに驚かざるを得ないものである。

一昨年近衛師團に、東京で元氣な學生の評判ある某中學校五年生の内、所謂健康生徒九十八名が、聯隊に宿泊中、精細な身體検査を施行したる成績を見るに、左の如き驚くべき結果を呈してゐる。即ち、

肺尖、上肺葉浸潤	九
胸膜炎	二
肺門腺腫	七
合計	三九
被檢生徒總數	九八

斯の如く肺なり、肋膜なりに悪い病氣を持つて居る者が、三十九人即總員の三分の一強は慢性の胸部疾患者である事は、學校教育に餘程の考慮を要すべき必要を痛感するのである。

之を要するに虛弱兒童の養護施設こそ、結核の發病を未然に防止する上極めて緊要なる事業である。然るに從來の如く結核豫防の目的達成の爲め、發病したる患者のみを收容隔離する方面に、巨大の財を投じ理想的の療養所を建設しても、其目的を達成し得べき者ではない。更に積極的に獨米の實例が示す如く、虛弱兒童の養護施設の擴充が目下の急務中の急

務であると思ふのである。

この施設たるや、都市郊外の森林地帯に設け、完全なる小學校としての資格を與へ、虛弱兒童は體質を改善しつゝ進級する仕組が必要である。斯様に進級する仕組であれば、親も兒童も焦ることなく安心して、眞に健康を恢復するまで氣長く通學するから。兒童の體質改善が充分に出来るのである、これ等の兒童は寄宿舎に起居するを原則とするも、家庭の都合により通學も許し、常に新鮮なる空氣、日光に親しむ様指導し、適度の運動と睡眠休養の時間を與へ、尙榮養食を與へるのが必要である。次にベルリン市の虛弱兒童施設の大要を示して参考に供し度いのである。

第七 獨逸に於ける虛弱兒童施設の實況

ベルリン市シャーロッテンブルグの虛弱兒童養護施設は、ベルリン市郊外の森林の中に設けられ、市内との交通は電車や、バスで便利な所に位置して居る。千九百四年の創立で、敷地は約一萬坪である、校門を入れば鬱蒼たる樹林の間に、點々と校舎や附屬建物が散見する。林間には遊動圓木、木馬、ブランコ、滑り臺、其他の兒童用運動具が備へてある。又處々に野外教授用の机が、約四十人程死木蔭に整然と準備せられ、其前には教師用の机や黒板の設備がある、机は全部木製暗赤色ベンキ塗である。主要なる建物は本館、教室十二、寄宿舎、炊事場、洗濯場、雜役室、數百人の收容力ある食堂、並に吹きぬき家屋で床（コンクリート）取付食卓數百人分を設置した林間大食堂、大午睡室、娛樂室、作業室等である、何れも木造建築ベンキ塗である。其他校庭の一部には、廣大なる花畠が設けられ、生徒の各組毎に教師の指導の下に、園藝を實習する様になつてゐる。又家兔や鶏の飼養場もある。

この學校の全生徒數は四百名で、職員は全部で二十七名である。内十一名が教師で残り十六名が事務員、學校衛生婦、炊事婦、雜役夫等である。別に三名の教師は嘱託として特殊の學科目を教へに來てる。校醫は土曜日毎に訪問して、生

徒の内特に虚弱な者を診察して、保健上適當な指導をなす事になつて居る。本校に入學する學童は、主としてベルリン市のシャーロッテンブルグの學童であるが、別に疾病保険局から委託された學童が毎年三十名内外ある。このシャーロッテンブルグには、三十五の小學校があつて、毎年一月に各小學校の校醫が、體格検査の結果この學校へ入學する學童を決定するのである。學童の日常生活としては、教師も學童も毎朝八時迄に登校し、八時十五分には擴聲器で音樂を放送しつつ十五分間體操をなし、次に第一朝食(果實、カッフェー、牛乳、パン、バタ)、午前八時四十分より十時三十分迄學課、次に第二朝食、次に午前十一時より午後一時迄學課、次に晝食、午後一時半より二時半迄横臥室で各自の横臥椅子に横はつて睡眠するのである、此の際特に神經質で安眠しがたき學童だけは、靜かな特別の場所で睡眠せしめる事になつてゐる。午後二時半から三時半迄學課、次にカツフェーを喫し、其の後は教師の指導の下に、遊戲や花畠の手入れや作業室で種々の模型を造る稽古なごをして遊ぶのである。

幼弱の下級生は、砂遊びや、林間に設けられたる運動具で遊んだり、種々の遊戯をして時間を過し、午後五時半になるご、教師は生徒を停車場迄引率して歸宅せしめるのである、各學級の學童は互に競つて分擔せる花畠の手入れをなし、堆肥も各組毎に造るご云ふ熱心ぶりであるから、花畠は整然として美事な花を咲かせて居る。

夏期の間は特殊の學課、例へば主として教師の話を聞く丈けの時は、綠蔭涼しき林間の机で學び、文字を書く必要ある學課は、教室内で窓を開放して學ぶのである。食事も夏期は無論、夏期以外でも寒くない日は吹きぬき大食堂で食する事になつてゐる。入浴日は火曜と金曜に定められてゐる。夏期は毎日シャワーで水浴せしめる。教室には必ず廊下兼用の副室が附屬して、學童用鐵製の高さ四尺幅一尺三寸の更衣箱が生徒數丈け壁に沿ふて並列してある。各教室内には數枚の油繪を壁間に懸けて、學童の心をなごやかにする様努めて居る。本校では夏期は登校生一同海水着と更衣して學び、且つ日

光に親しむこなごも、普通の小學校と異なつた點である。本校へ入學した者は、家庭の事情を斟酌して最低三十ペニヒ（約四十二錢）より最高五十ペニヒ（約七十錢）の金を毎週學校に納入する規定になつて居り、其の不足はシャロツテンブルグ並にベルリン市より補助するのである。

夏期休暇中も學童の内學校の寄宿舍に止る者が多數あるさうである。此等の寄宿生は土曜日に限り歸宅して一泊する事を許されるが其の他の日は特別の事情なき限り歸宅は許されない。本校の寄宿舍は木造で、暖房設備を有し男女に分れて廣大な室にベットが二列に並んでゐる、特に神經質な學童だけは閑靜な別室を寝室として居る。寄宿舍の大部分は上級生であつて、十二歳以上の學童は各自のベットは自ら整頓せるのみならず、自治的精神を養ひ、自己の用事は自ら處理する如く努めて居るので寄宿舍内部、洗面所、靴手入室の如き稍々もすれば不潔、不整頓になり易き室が實に整然として清潔に保たれて居るのである。

以上の如く歐米各國が虛弱兒童の養護施設に對し、多大の努力を拂ひ居る所以の者は、この事業が結核の發病を未然に防止し、且つ健全なる國民を養成する爲には極めて有效なる、唯一の手段方法である事を痛感して居る爲めである。

我國に於ても爲政者は勿論其他富豪特志家が其の重要性を認識し以て斯る事業の急速なる發達を熱望して止まないのと同時に小學校に於ける虛弱兒童の取扱法の改善は勿論、幼兒保育の實際上にも幾多の改善を要すべき點ある事を教育當事者の反省を促し改善を希望する次第である。（一一、七、四）

第一回フレーベル賞幼児童話審査發表

豫て募集中の創作幼児童話に對し二百篇に近き應募作品があり、いづれも熱心なる御好意に對し感謝に堪えません。前々發表して置きました通り、小川未明、岸邊福雄、倉橋惣二、久留島武彦、田島真治の五氏の嚴密なる審査の結果、豫告決定通り一、二、三各等各一篇を選外佳作十二篇を決定しました。その作品は順次本誌上に掲載します。尚ほ當選諸氏に對しては、規定通り、株式會社フレーベル館創業三十周年記念寄贈幼兒教育研究獎勵資金による賞品を贈呈いたします。

第一回以後の募集も、追つて發表の筈、益々多數の方の應募せられることを切望いたし置きます。
猶本誌に入選作を發表して下さいます。

一 等 「十五夜のお山」

宮城縣塩釜町尾島保育園

倉 田 せ つ み君

二 等 「時計の子供」

栃木縣女子師範學校附屬幼稚園

佐 藤 久 子君

三 等 「め だ か」

京都市華頂幼稚園

米 田 ヨ ネ君

選外佳作

「積木の御殿」

東京市私立若竹幼稚園 中野 靜君

「蟲の洋服屋さん」

東京市私立大和郷幼稚園 菅野ミチ子君

「かづぼこ蛙」

福井縣鯖江幼稚園 山本ユキ君

「蝶々のくびかさり」

東京市世田ヶ谷區紫苑幼稚園 高桑博子君

「かたつむりさん」

東京市中野區さくら幼稚園 宮田國子君

「ふしきな卵」

神奈川縣大磯町幼稚園 須子啓子君

昭和十二年九月

「メダカの坊や」

福島縣喜多方幼稚園 小原すみ子君

「蚤ご螽斯ご蟋蟀の高飛競争」

東京市幸田信子君

「森のお友達」

岡山縣津山市津山保育園 中村金江君

「豚の旅行」

富山縣八尾町青葉幼稚園 藤崎をあ君

「蛙ご螢」

仙臺市双葉幼稚園 岡本千枝子君

「みんぱは何に乗つて來たか」

朝鮮仁川府記念公立幼稚園 山本文子君

日本幼稚園協会

入選童話　一等

十五夜のお山

倉田せつみ

黄色いきれいなお月さまは、夜になるごとにお山のかげから大きなお顔を出して、一晩中てらして歩きます。

昨夜も一昨日の晩もその前の晩もその又前の晩も——もう一週間ばかりごいふもの毎晩歩きつけましたので、お月さまはうへへ疲れて了ひました。

「あへへ、する分歩きつけたのでくたびれた。一二三日ゆつくり休むごしよう。」

さう云つてお月さまはお山のかげに横になつたきり今夜からは顔をみせません。

お月さまが出るご必ずお山の鬼さんは踊りををざり、お山の狸さんはボンボコボンご腹づみをたゝいて一晩中遊び明します。

昨夜も、一昨日の晩も、その前の晩も、その又前の晩も——もつ一週間ばかりといふもの毎晩鬼は踊りつけ、狸は太鼓を打ち續けましたので、兎も狸も、うづくつかれてすみました。

兎さんは

「あゝく、する分踊りつけたのでくたびれた。今夜はお月さまも出ないやうだからゆづくり休むこしよう。」

「うづくてお山のすゝきの蔭に眠つてすひました。狸さんも

「あゝく、する分腹太鼓を打ちつけたのでくたびれた。今夜はお月さまも出ないやうだから

「うづくり休むこしよう。」

うづいてお山の穴の中に眠つてすひました。

その晩はお月さまが出ないから真暗でした。

それに兎さんも踊りををぎらないし、狸の腹づぶみもきこえない淋しい晩でした。只いろいろの蟲達ばかりが歌を唄つてゐました。

次の晩になりました。けれどまだお月さまは日をさしません。よつぱり疲れたのでせつ。
兎も狸もまだ眠つてゐます。昨夜と同じやうに暗い淋しい晩でした。

その又次の晩がまるりました。お月さまも兎も狸もまだ眼をさしません。よつぱりさびしい暗い夜でした。

まづくらな淋しい晩が三日ばかり續きました。

四日目の夕方のことです。兎はひよつと目をさました。誰か呼んでゐるのです。

「おやーだあれ？ 私を呼んでゐるのはだあれ？」

「兎さん私ですよ。鈴蟲ですよ」

「あら鈴蟲さんだつたの？ 今晩は」う起き上つて兎さんは鈴蟲におじぎをしました。

「兎さん、よく眠りましたね。三日ばかりこのふもの毎晩まづくらで、兎さんの踊りもみられなかつたし、狸さんの太鼓もきかれなかつたし、それに私なんぞ大事な鈴を落してしまつてもお月さまが出ていらつしやらないから、暗くてさがす」うも出來ないんですよ」

「眼に涙までためてあはれつぽい聲でいひました。

「オヤ、それは困りましたね。お月さまもまだ眠つていらっしゃるんだね」

「ハ、おこなりのスキッヂョさんもヴァイオリソの糸が切れたから町に買ひにいかうと出かけたんでしたが暗くて道がわからなかつたために、石につまづいて足を折つて了ひましたよ。」

兎さんはすつかりびくりして、

「まあ、それは可愛いさうなことをしましたね。その足はもうなほらないですか？」

「じゃえ、すゝきの葉でなでながらお月さまの光にあてるごすぐなほるんですね」

「それがですか、それぢやお月さまに今夜はさうしても出ていたゞかなければなりませんね。狸さん相談してみませう。」

さう云つて兎さんはピヨン／＼はねて狸さんの穴にやつて來ました。

「今晚は狸さん、兎ですよ。起きて頂戴」 トン／＼／＼戸を叩きましたので、狸も眼をこすり乍ら起きて來ました。

「鬼さんかい。おや何か出来たの？ そんなにいきを切つてかけて來たわけは？」

「あのね、狸さん大變なのよ」

「いつてさつき鉢蟲のはなしを狸に話してきかせました。

「ね、狸さん。だからひつうんと高く腹つゝみを打つて頂戴よ」

狸もびっくりして

「さうかい。では早速太鼓をたゝきませう」

穴から出て來ました。

狸はお山の高い處へ上つて上つて力一杯お腹の太鼓を叩き初めました。

ボンボコ／＼

ボンボコボン

ボボンコ ボンボン

ボコボンボン

狸の太鼓の音は、谷を越え、すゝきの野原を渡つて、お山のかげの方までひゞいてゆきました。

お山のかげで眠つてゐたお月さまは、ひよつと日をさおしました。さうしますとボンボロボンボにぎやかな太鼓の音がきこえるでせう！

「おや！ 狸が太鼓を叩いてゐるぞ。わしが顔を出さなければや兎も踊るはずはないし、狸も腹づみを打つはずがないんだがなあ。をかしいぞ。それひきつのぞいてみよう」

さういつてお月さまはお山のかげからちよつぱりお顔を出してみました。お月さまがお顔を出したから今まで暗かつたお山はバアーッと明るくなりました。兎はよろこんでますく面白く踊り出しました。狸の太鼓にあはせて、きれいないゝ聲で歌を唄ひながら。

十三七ツのお月さま

いつまでおねんね

してなさる。

兎の踊りを

見やしやんせ。

蟲の音樂

いかゞです

くずの葉お餅は

いかゞです。

お月さまもよろこんで、ニコ～笑ひながらまんまるい大きなお顔をすつかり出して「ひました。しばらくぶりで、お山は明るくにきやかになりました。

鈴蟲さんはおこした鈴をみつけました。

スキッヂヨさんも足がなほつてヴァイオリンの糸を買ひに町へ出かけました。

もはやお山ではにぎやかな音樂會が初まるといでせうよ。

丁度十五夜の晩でした。

時計の子供

佐 藤 久 子

ヒカウキ三ばしや戦争ゴッコで遊び疲れた英夫さんは、お夕飯がすむごもうお隣の部屋でスマーヘむつてしまひました。

それから何時間過ぎたでせう。

英夫さんはボッカリ眼がさめました。お家の中はシイーンと静まりかへつて、側にはお父様もお母様ももうお休みになつてゐらつしやいました。英夫さんは、

「なアーんだ！ まだ夜中なの！」

「思つてまたお目々をつぶりましたが、なんだか今までカツチンくなつてゐたお部屋の柱時

計が、ピッタリ止つてしまつたので、變だなと思ひながらそ一つお目々をあけて頭の上の時計を見てみました。

「おや」!!

時計のガラス蓋がひきりでスー^ンと開いたんです。

英夫さんはなんだか、はくなつて来て、もう少しで「お母さん！」て大きな聲を出しさうになりました。

「おあ子供たち、何時もの時間がやつて來た、今日も元氣に遊ぶのだよ」

其の時、そのお時計の中から小さい可愛らしい聲が聞えて來ましたので、英夫さんは一層ピックリしましたが、あんまり可愛い、聲だったのではいのを忘れて、そつておふくろから顔を出してゐました。

「そら、お父さんが一番先におりるから、みんなもあひこいついでおいで」

そんな聲が聞えたかと思つたら、お背の高い、やせつぼちの針がスー^ンと英夫さんの枕もぐ

におりて來ました。そのあこから頭の大きな小さい針が、つづいて1の字2の字3の字4の字
5 6 7 8 9 10 11、みんなスルリ／＼おりて來ました。

一番先におりてきた大きな針はお父様だつたのね、その次の小さい針がお母様、それから十
二人の子供たち……。

なんだかこつても面白さうで、英夫さんは何時の間にか、半分位顔を出してみてゐました。

「今夜は何して遊ばうか」

「ボク、戦争ゴッコがいゝ」

8の字が圓い身體でピヨン／＼び上りながら元氣な聲でさう云ひました。

「僕も」

「僕も」

みんなも大よろこびで、戦争ゴッコをすることになりました。

「それぢや二組に分れるのだよ、お父さんとお母さんはみんながこの位強い子になつたから

でみてゐますから」

お父様の針がさう云つたかごともふく、もう十一人の子供たちは半分に別れて、こつちは英夫さんのお母様のおふくろのかげに、もう一つはお父様のおふくろのかげにかくれました。しばらく兩方ともこそ／＼何かしてゐましたが、英夫さんにはよく聞えませんでした。そのうち、さつちかの時計の子供が

「ピピドーナン／＼」

「鐵砲のまねをします」、別の方の子供たちも負けずに

「バチ／＼／＼ダダダ、バチ／＼ダダダ」

「機関銃のまねをします。英夫さんは「時計の子供たち何時演習を見たんだらう」ミ不思議に思ひました。

あら！、お父様のおふくろのかげから3の字が半分身體を出して敵の方をみてゐます。

「あるないよ兄さん、うたれるぞ」

「大丈夫だよ、まだ敵はやつて來さうにもない」

「**三**の字は強んだな」**英夫**さんは一人で感心してゐました。ある**お母様**のおふくろのかげから急に「ワーアー」と云ふ元氣な聲と一緒に小さな兵隊さんたちが、しゃがんでこちらに攻めて來たのです。すると**お父様**のおふくろのかげからもさつきの**三**の字が先頭に

「ヤアー」

「ヤアー」

「云ひながらこうびさうな格好でお山をおひで來ました。(お山つて**お父様**のおふくろの...)」
よ)

「進メサ」

「進メサ」

兩方の子供達は真中の**英夫**さんのおなかの上に突貫して來ました。

「ひいな」

英夫さんがピックリして大いそきで頭をぶらんの中にひっ込みましたが時計の子供たちは平氣であはれはじめます。

「くすぐつたり〜よお」

英夫さんはもうたまらなくなつて大きな聲を出してしまひました。

あはれてるた子供達はお山がグラ〜動き出したり英夫さんが大きな聲を出したりしたのでピックリして、ひつくりかへつたり、ころげおちたりしながら、あわてゝ逃げ出しました。

英夫さんはおびこの上に起上り

「ね、君たちそんなにかけ出さないで、もつじ〜つちへるらつしやい、君たちは何時も夜中に起きて遊ぶの？ 隨分元氣なんだね、僕もつきから見てたんだよ」

「坊チヤン起こしてしまつてごめんなさい。あんまり夢中になつてるたものだから」

「う〜んい〜んだよ」

英夫さんはもうすつかり時計の子供たちと仲よしになつてしまつて、今度はみんなおぶらん

の上に輪になつてお話をはじめました。

「でも坊チヤン、僕たちは朝早くから一生懸命働いてゐるのですけれど、坊チヤンたちがせんなこ ciòをしてるらつしやるかみんな見てるるんですよ。

今朝も坊チヤンはお母さんに、幾度おっされても「ウンノ」つておへんじばかりして、おふさんかぶつてしまつて起きなかつたでせう」

「君たちみてたの、いやだなあ、僕ちつとも知らなかつた」

「それから坊チヤンがおいたするのなんかもすつかり知つてるるんですよ」

お日様がお窓からニコ／＼入つてゐらして英夫さんはやつとお目々があきました。

おふさんから頭を持上げてあたりをみまはしましたが、時計の子供もお父さん針もお母さん針もだれもゐません。

英夫さんは大いそきでこび起きるこあわてゝ柱時計を見上げました。123の数字も針も何

時も同じ様にキチンミならんで、すましたお顔でカ・チン／＼カッチン／＼音をたてゝゐます。

「おはよう、君たち随分はやいんだね、もう働いてるの」

英夫さんが大きな聲でさう云ひましたが、お時計の中からあの可愛いゝ聲は聞えて來ませんでした。

「それちやゆうべのは……夢だつたのかしら」

英夫さんはさう思ひながら心配さうにもう一度見上げました。

でもやつぱりゆうべの子供たちがだまつて英夫さんのお顔をみてる様な氣がして、英夫さ

んは大いそぎで一人でお洋服を着ました。ズボンもお靴下も一人ではきました。

「まあ!! 英夫さん今日はさうしたのでせう。こんなにお利巧さんになつて」

丁度その時入つてゐるらしたお母さまは本當にピックリなさいました。

「僕、今日からお利巧さんになるの、だつて時計の子供たちみてるもの」

英夫さんはあの晩時計の子供ミ仲よしになつてから、ほんとにいゝ子になつたのですつて。

入選童話 三等

め だ か

米 田 ヨ 禾

あたりがすつから縁になつたお空には、端午の節句を祝ふ鯉幟が元氣よく風にのられてゐました。

お空は青葉の日本晴で小川の水もチヨロ／＼音を立てゝ流れてゐる様でした。

其の小川の廻りくねつた水溜りに可愛いメダカさんの小さなおうちがありました。おうちは杭ミ杭ミにはさまれた、本當に小さなおうちでしたけれども、お座敷もあればお倉もちやんごある立派なおうちでした。

きれいなお水を通して金色のお日様の光がユラ／＼／＼おうちの中に差し込む。メダカ

さんのお母さんは、

「うれ～～お日様がお目覺めだよ、さあ～～お日々を覺ましてびらん」

「子供のメダカさんを起しました。起されたメダカさんの子供は、

「眠いなあ、眠いなあ」

「言ひながら美しいお水でお顔をサラ／＼／＼洗ひ、御飯を頂きました。するこお母さん

は

「うれ～～、みんなお聞きよ、みんなはまだほんの生れたての小さい子供だから遠い所へ行つ
ちやいけませんよ。此の小川にはね、みんなよりも、もつこ～～大きいおきかなるんです

よ」

「大きいおきかなつてうんなの」

「子供達が聞きます」お母さんは

「鮎さんやらお鱈の生えてるる鰐の小父さんやらがるて、みんながお母さんの言ふ事を聞かな

いやおうちから外へ出やうものなら、うつかりするごとバクリ／＼ご喰べられるかも知れませんよ」

「やう、バクリご喰べるつて怖いわねえ」

「子供のメダカさん達は、自分より大きなおさかなの事をお母さんから聞かされて、きつこお母さんの言ふ事を聞く事をお約束しました。

それからしばらく子供のメダカさん達はおうちで楽しく遊んでゐましたが、あまりお遊びに夢中になつてついお母さんの言ひ付けを忘れてひょ／＼おうちを飛び出しました。子供のメダカさん達は小川の中をあつちへ行つたり、こつちへ行つたりして嬉しさうに泳いでゐる中にだん／＼おうちから離れて行きました。もうおうちの事なんかすつかり忘れて一生懸命になつて遊んでゐます三丁度、小川の側の一軒のおうちの所まで來た時です。

そのおうちにはね、可愛い坊やのお節句を祝ふ鯉幟がサラ／＼ご屋根の上に上げられてゐました。

する。其の大きな鱗幟の影が小川の中に映つてゐるのです。フト上を見上げた小さなメダカさんはじつくりしました。

「オヤ、なんだらう」

「兄ちゃんが言ひます。他のメダカさんも

「なんてまあ大きなお口だらう」

「なんてまあ大きな身體だらう」

兄さん、お母さんがね言つた大きなおさかなつて之かも知れないよ」

「ウンへへうだよ。あの大きな大口で僕等をパクリと喰べるんだよ。お母さんの言ひつけを守らないからさあ」

「子供のメダカさんはお母さんのおつしやつた事を思ひ出しました。

「ああ、みんな早く歸つてお母さんにお詫びしませう。大きなおさかなさんに喰べられない中

「兄さんのメダカさんが先頭になつて歸りかけやうとした時です。

さつきの鯉幟に夏の涼しい風がサアサア吹きました。鯉幟の先に付いてる矢車がガラガラ音を立てます。大きい鯉幟の影が小川の中で揺れて、まるで泳いでる様に見えました、ガラガラ音を立てる矢車はプロペラの様に見えたのでせう。びっくりした様に

「兄さん、大きいおさかながね、あこから追つかけて来るよ。飛行機の様にプロペラを付けてらあ、早く歸らうよ。お母さんが待つてゐるから」

「子供のメダカさん達は急いでおうちへ歸りました。

それからお母さんの言ひ付けをよく守つて遠くへ遊びに出ない様になりました。

積木の御殿

中野 靜

お母様が、よそにお出かけになつたので晃さんは、つまらなくなりました。廣いお部屋にたつた一人ボッヂになりましたので、押入れをあけて大きな箱をかゝへ出しました。此の間、晃さんのお誕生日に叔母様に頂いた積木の箱なのです。その積木は、他の積木と違つてコルクで出来てるて側が赤や青、緑、黄でぬつてあります。晃さんはお友達のない時は、いつもこの積木で汽車をこしらへたり、お家をこしらへたりして遊びました。今日は晃さんは細長いのを先づ二本立て、御門を作りました。そしてその兩側に青い積木をすらりと並べて屏にしました。

「わいっ／＼こゝの御門、戸がしまつてゐるのにしませう」

御門に扉をつけました。

「ここの残りで・さうへお家をこしらへませう」

だん／＼積木のお家が出来て來ます。高い／＼立派なお家になります。お屋根の上に一本柱を立てる／＼立派なお城です。晃さんは得意になつて、まるで自分がこの立派なお城の王様の様な氣がしました。それで玩具のサーベルを出して來て下げました。扉を開けて御門の中に入りたいと思ひました。でも御門は積木で小さいのですもの。晃さんがどんなにしても入る／＼はできません。

.....

所がいつの間にか、ぎりからか勇ましい軍樂隊のラッパの音がする／＼晃さんは御門の中の砂利道をしづ／＼歩いてゐました。兩側には軍服をつけて白い鳥毛の帽子をかぶつた小さな兵隊さんがざらりと並んでゐます。

晃さんは、こ／＼してけんつき鐵砲で擣銃をしてゐる兵隊さん達に失敬をしながら行きま

す。軍樂隊達はドンドコトテトテ～ご勇ましい音樂で迎へてくれます。晃さんが積木の御殿に入ります三、小さい大將さんや中將さんも五人後からついて來ました。

王様のお部屋に入つて金ピカのお椅子に腰かけます三、大將さん達の中でも、一番えりさうな白いお髭を生した人が

「王様！これから何かお祝ひを致しませう」

でも晃さんはお祝ひよりも元氣な事が好きなのです。

「観兵式をやらう」

「ハイ～、かし～まりました。では早速」

晃さんの王様はうれしくてたまりません。得意になつてお部屋を出ました。白いお髭の大將に案内されて表の庭へ出ます三、立派な事立派な事！！　まほりは美くしいお花が咲きそろつて、中は廣い廣い練兵場です。

小さな兵隊さん達は幾列にも並んで勇ましい軍樂隊に合はせてトットコ～～進みます。

晃さんの王様が

「飛行機もタンクも皆觀兵式にして來い」

「命令します」。すぐ空にはブルン／＼／＼／＼勇ましいうなりを立て、五臺づゝかれいに並んだ飛行機が飛びます。兵隊さんの進んだ後にはタンクや装甲自動車がすらりと並んでドカ／＼ガタ／＼進んで来ます。晃さんの王様が手をたゝいてほめます。小さな兵隊さんも飛行機もタンクも皆

「王様バンザーリ 王様バンザーリ」

「両手を上げて喜びました。

観兵式がすんと食堂で皆でおごちさうを頂く事になりました。晃さんは一番真中の一番おいしさうなおごちさうのテーブルに著きました。さあ美味しい色に輝いてる果物！おいしさうなお菓子！

「それから食べやうかな！ よだれがたれる」

「言つて先づきれいなチョコレートのお菓子を、お口に入れやうとした時です。

「まあ晃さんは！ホヽヽ何がおいしいのですの」

「やさしいお母様のお聲です。晃さんはバッチャリ眼がさめました。晃さんは積木の御殿の御門の入口でお晝寝をしてゐたのです。

「まあ、今の夢だつたのか」

でもお母様は本當に、さつき夢の中に出で來た小さい兵隊さんの玩具、さつき食べたやうなおいしい、お菓子をおみやげに買つて来て下さいました。

「やあ、うれしいな〜」

晃さんは、さつきこしらへた積木の御殿にその兵隊さんを並べました。

そして夢で見たよりも、もつとも面白く遊びました。

「をはり

幼稚園を覗く（二）

竹
村

一

この脊柱の異常者さいじゆぶつのふえて來た事は、いろいろの事情があると思ひますが、矢張り「姿勢の教育」せいじゆのことが忘れられてゐたからではないかと思はれます。

幼稚園の衛生えいせういへば、お医者さんや、園醫さんが来てして下さることだのみ思つてゐた昔の時代の流れが、まだ残つてゐるところから、保姆諸君はかうした身體の方面のことは比較的忘れられ勝であつたのではないかと思はれます。

幼稚園衛生學えいじゅんえいせうがくといふことは醫學であつても、幼稚園衛生えいじゅんえいせう。

いふことは、教育としての仕事であります。「學としての存在」と「仕事としての存在」を判然り區別してゐない保姆諸君のあることを屢々見つけます〔拙著「教育としての學校衛生」（學童保健第六卷第六十五號）「日本學校衛生の特色」〕

（學童の保健昭和十二年一月號）を參照されたし。學校衛生の講習や、幼稚園衛生の講習いへば、大抵、醫學のお話でせう、教育いふ仕事——教育の理念と方法に従つた教育としての衛生は殆ど聞かれないと。

健康教育、健康教育よく言ひますが、健康教育と云ふよりも、健康醫學と云つた方が遙にましな様な場合が屢々あります。健康教育は、教育としての衛生であつて、醫學ではないといふことを話す人も、聞く人も、忘れてゐる場合が多い。

現代教育の理念と方法とに従はない外國流な健康教育の存在と「仕事としての存在」を判然り區別してゐない保姆考へ方は、此際よしにして、日本は日本としての健康教育について考へたいです。身體のことは、醫學だなきのみ考へてゐる人はたゞへ、健康教育いふ言葉を用ひても、

それは、廣い意味での衛生の教育化であつて、學校や、幼稚園に於ての他の教材を指導するに同じ意味——理念の方法上——の健康教育ではない。

教育^{きじゅく}には、全一的、全體的であることが必須條件である。健康に関する教育も、學校や、幼稚園で、教育として行はるゝ場合には、それが、哲學上の思惟をへた理念^{おもねり}、現代の教育學の教ゆる指導方法^{じゅほう}に従つて、考へられたものでなければならぬ^こと思ひます。

さて「姿勢の教育」であります。昔から姿勢^{しき}には、すぐ机、腰掛^{こしらか}、聯想される程、姿勢は机、腰掛け密接な相關におかれてもたのであります。

○

倉橋先生

もうでせうか、私は此頃^{こひ}こんなに考へる様になつて來ました。

それは、勿論机、腰掛け就て考へるゝのも大切であるが、それよりも、まづ脊柱彎曲は、多くの場合、背部の正しく教育が足りない結果ではないか^こと思ひます。そゝで、少く

いつも幼稚園では、毎日背部の健康教育をやるゝ^こにしては考へます。多少は古い本であります。例へば Child training—V. M. Hilyer の Physical training “Down, Up” Developing the body (1299) の様な運動を毎日幼稚園^{よがん}では如何にやつて、或は特別に姿勢の悪い^このがわらば、之も古い本ではあるが、Hans Spitz—Körperliche Erziehung des Kindes の Ausgezeichnete körperstreichübung (p. 158) の様な運動をやつてみては如何でせうか。

たゞみ紙、ぞり紙、描き方、觀察、遊戯等の外にかうして、教育としての衛生が、幼稚園保育の中に入れられては悪いでせうか、かうした注意、心やりが保母諸君の手で、こらもに行はれる^このは悪いでせうか。

「姿勢の教育」が之迄餘りに閑却^{かんぜつ}されてゐたのが、人間に種々の病氣を起した^こなへ考へる人があります。私も不健康^{ふけう}な^こへ姿勢^{しき}が悪い^こは、非常に密接な關係がある^こな^こに驚きました。

日本人は、もつて正しい姿勢について注意を拂ひ、正し

い姿勢の持主になる様に努力する」の必要を痛感するものであります。その意味から先づ幼稚園では「姿勢の教育」

をやつて欲しいと思ひます。如何でせうか。

幼稚園の「もの食事の時、本を見る時、ねる時、歩む時、机による時、坐る時、物を眺める時、正しき姿勢について考へて欲しいと思ひます。

學習院の教授渡邊八郎先生は「體の修養」の第一に體の相として、起居動作の正しき態、正しき姿勢を擧げておられます。

正しき姿勢は體の修養の第一であると述べられ、更に此正しき體の形相の上に武術の練磨をせよと説かれています(同先生著「國體ミ教育」一〇〇頁参照)。

姿勢について關係の深いことは「歩く」と「立つ」です。

幼稚園の「ものから、「正しく歩く」の練習をして欲しい」とです。

どうでせうか。

「學校體操教授要目」が改正になりました、そして色々の新しい種目が加はりましたが、就中、特に私の眼を引いた

のは「歩及走」の一項目が加つたことであります。

「正しく歩く」といふことは又我々の健康生活に重大な役割を持つものだと思ひます。取り分け、姿勢には非常に關係が深いと思はれます。

幼稚園の保姆諸君は「どもが「正しく歩む」か否やについて考へて下さつてゐるでせうか。いろいろのお遊戯をする前に、「正しく歩く」ことが必要ではありますまい。

手ぶらで歩く時、物を持つてあるく時、いろいろの場合について、保姆諸君は考へて下さつてゐるでせうか。

私は姿勢の悪い「どもが多少ふえて來た」とを思ふ時に、こんな感じが頭の中で湧いて参りました。

倉橋先生。

嘗て先生は「幼稚園雜草」の中の「幼稚園の生活」で「幼稚園は子供の心と身體の活動欲に正當な満足を與へて、それによつて子供を存分に成長させてゆく」とあると云つていゝであります(一四二頁)を教へて下さつたです。

○
正當な満足を與へて存分に成長させる。

こゝが幼稚園の使命であるとするならば、健康生活を障礙せない様に心身の活動欲を正當に満足せしめて成長を助ける仕事は亦幼稚園教育で當然なさねばならないこゝであるこ思ひます。

そこで、私は此四月に或幼稚園で、改正された身體検査法によつて行ひました其結果——測定、診察、觀察——をまごめて、一人一人のお母さんをお呼びしまして、そして日常家庭に於ける生活で健康上のお氣付の點を聞かせていたゞき、そして又こちらからも發見した事を申上げましてお母さんと保母さんと園醫三三三人鼎坐して、お母さんと膝を交へてお話を致しました。之はこゝもの活動欲を正當に満足せしめる爲の根本的な仕事であるこ思ひます。

是迄は身體検査の結果を通信簿で、家庭へ通知したり、或は検査のすんだ後で母の會をして一同にお話をしたりして來た場合が多かつたですが、今年は全然、一變して、一人一人について「生活指導」をすることにしました。

まだ一學期しか經過しませんが、著しく感じた事は、お母さんが非常に、切實に、こゝもの身體について考へて下

さる様になつたこゝ、今一つは、こゝもの日常生活に於て正當な満足を心身に與へようこゝ一層注意を拂はれる様になつたこゝです。

私は、かうした個人、個人について保母さんと、園醫さんが一所になつて話合ひ、相談するこゝが、小學校へ行く前の數年間に於て行はるゝこゝが、將來そのこゝもの爲に、され程か重大な意義を持つかこゝを考へさせられました。

身體検査の結果の利用こゝは、教育として仕事であるこゝが保母諸君の頭には入つたならば、それが保育である——少くとも健康への正當な満足が與へられ、それによつて、こゝもが存分に成長するならば、幼稚園に於ける仕事の大部は、はたされた云つてもよいではないかと思ふ。

正當な満足を與へて、それによつてこゝもを存分に成長させてやりたい。

こゝの念願は、一步進んで保育の實際上に今一度考へて欲しい氣がしますが、

先生！ 如何でせうか。(つづく)

お馬の話 その二

白根孝之

お馬の水浴び

皆さんの中にはこの夏のお休を海につかつて暮らした人もたくさんあります。今度はお馬の水浴びの話から始めませう。

お馬の水浴び！皆さんはびっくりするかも知れません。あんな大ほきな圖體の馬が水なんか泳げるのか知ら、僕たちだつてボチャ／＼しか出来ないのに。けれども、皆さん、度々言ふ通りお馬を餘り馬鹿にしてはいけません。

お馬はなか／＼水泳が上手です。宇治川の先陣争ひでは、

佐々木信綱と梶原景季を乗せて、渦巻く濁流の宇治川を見事に乗り切つたではありませんか。又明智左馬守は近江の琵琶湖を馬で渡つて居ります。近頃の戦争でも、いざなれば鴨緑江だとか揚子江だとかいふやうな大きな河を、

兵隊さんは馬に乗つて泳ぎ切らねばならないかも知れません。そんな萬一の場合のために夏になれば騎兵の聯隊では馬の水泳の練習をやるのです。これを水馬演習と申します。

水馬演習は川が海へ注ぎ込むあたりを選んで行はれます。河の兩岸が切り立つた涯のやうなところでは、水馬は出来ません。何しろあの大きな身體（ボディ）ですから。サンブルとばかりに飛び込むといふやうな藝當はとても出来ません。そこで段々に深くなつて行くといったやうな川口でやります。

川へ入つて行く時には兵隊さんが乗つたまゝで乗り入れます。始めは大抵のお馬が嫌がります。さうでせう、何しろ百貫以上もある大きな圖體を、あの細い脚であがいて泳がうことはですから、大儀にちがひありません。けれど

も乗手が機嫌を取つたり、叱つたり、勵ましたりして、だんぐりに川の中へ乗り入れて行きます。川が次第に深くなつて馬の脊丈が三どかなくなるところで、乗手は右手で馬のたてがみを掴み、左手で手綱をさつて、お馬の横腹にくつゝくやうにして身體を水に浮かせます。そして「ホーラホーラ」ご掛聲をかけて馬を勵まします。お馬はあるの長い顔だけを水に浮かせ、耳を立てて、フーッ／＼ミ水しぶきを立て乍ら泳いで行きます。あの四本の脚で犬かきです。陸地を駆けるやうなわけにはゆきませんが、なか／＼早いです。動物の中では水泳ぎは上手な方です。溺れるまで泳がしたことはありませんが、いざこなる三一里やそこいらは泳げるのであります。そして向ふ岸まで見事に泳ぎついで、すく立ち上り、身ぶるひして一聲高くヒンと名乗を上げるところは、なか／＼勇ましい武者振りであります。

かうして二三日つづけて水馬の演習をします。やはり夏の暑い時には、お馬も水浴びは嬉しいと見えて、始めにはあんなに嫌がつたものが、気軽にズン／＼水の中に入つて行くやうになります。

水馬演習は騎兵の兵隊さんに三つて、夏の演習のうち樂しみなものゝ一つです。

次には同じ夏の演習でも苦しい演習のお話をしませう。人も馬も汗ダクでクタ／＼になりながら、何日もぶつ通しで演習をする時は、全くらくではありません。それでも未だ敵の方に向つてドン／＼駆けたり、お馬から降りてボンボン鐵砲を打つたりしてゐる間はいいのですが、夜も寝ないで何十里もの長い道を行軍して行く時は、全くやり切れません。身體がつかれるのは三も角く、睡むくつてしまふのがないので。お馬もさうでせう。兵隊さんのなかには、いくら氣を張つても耐まらなくなつて、お馬の上でついたト／＼眠り出す者があります。そんな時によく大變なことが起るのでです。

それはお馬もつかれてたゞ前の馬に引きずられるやうにして歩いてゐるだけですから、つい足もとがおるすになつて、石ころなぎにけつまづくのです。さうする三、何しろあの重い身體^{からだ}に重い荷物をのせてゐる割合に、細い脚ですから、ひざつこどうをいやといふほどぶつゝけて、大きな

傷をこしらへるのです。一度これをやるゝ馬の前脚が弱くなつて、高い障礙を飛び越えたり、猛烈な速さで駆けたりすることが出来なくなります。ですから、軍隊ではとてもやかましく言つて兵隊さんの不注意を戒しめるのです。乗手さへしつかり氣を張りつめて乗つてゐて、居睡りなんかせず、お馬がけつまづきさうになつた時に、「ホーラッ」さばかり掛けをかけて手綱を引き上げてやれば、こんなことは起らないからです。

前にお馬の重さのことを申しましたから、こゝで少し詳しく話しませう。皆さんの中でも重い大ほきい人と軽いチビ公があるのと同じく、お馬にもやっぱり重いのが軽いのがあります。けれども大體にならして今の日本のお馬は

百三十貫から五十貫位あります。皆さんに、ざつて三十人くらゐ一緒になつたくらゐと思へば、大した間違はないでせう。然しこれは始めからこんなに重かつたのではなく、日露戰争の頃にはずつとく／＼小さくて、ロシヤの騎兵の乗つてゐる馬に比べて、ずつと見劣りがしたのです。そこで、これではならないといふので、陸軍の偉いお父さん方が、

西洋から大きな強い馬を買入れて、それに赤ちゃんを生ませたり、飼ひ方を研究したりして、やつて、よその國に比べてあまり負けないやうな體格に育て上げたのです。この前のオリムピックに西大尉やその他の騎兵の將校が乗つて出たお馬は、かうして日本で育てた馬だつたのです。その前にアメリカのロサンゼルスで西大尉が優勝した時の馬は、日本のではなく、西洋で生れて西洋で育てられた馬だつたのです。この次に東京で開かれるオリムピックには、是非とも日本のお馬で優勝しようといふので、今陸軍の將校は大變なはり切り方です。皆さんも、せいぐ／＼お馬に應援してやつて下さい。

お馬の成長

次は、お馬の成長といふことに就いてのお話です。皆さんは、今ではそんなに大きくなつて元氣で幼稚園に通つてゐますが、生れるときからそんなに大きかつたのではなく、赤ちゃんの時にはお母さんのおっぱいを頂いてゐたのでせつてゐる馬に比べて、ずつと見劣りがしたのです。そこで、がられてだん／＼に大きくなつて來たのでせう。お馬でも

やつぱり同じです。生れるときから大砲を引つぱたり、人を載つけて走つたりはこでも出来なかつた筈です。ではさういふ風にしてあんなに大きな逞しい一人前のお馬になつて、國の爲に働くやうになるのか、その大きくなりゆくまでの様子をお話しあませう。

日本でお馬の出来るところは主に北海道、東北、九州なごであります。そこにはさうにかして立派な馬を、たくさんつくるとして陸軍の牧場も出来て居ります。お馬は生れてから四歳になるまでは、これ等の牧場でお母さんと一緒に自由に遊びながら大きくなるのです。牧場といつても、柵でかこつた運動場のやうな小さなものではなく、廣いお山や野原がそのまゝに一つの大きな牧場になつてゐるのです。

お馬はずつと昔、人間に飼はれていろいろの仕事のお手傳をするやうになるまでは、やはり獅子や狼等と同じやうに、森や野原の中に住んでゐて、自由に駆けまはつてゐたのです。それが氣がやさしく、お懐巧なところから、人間に馴れて来て、そのお手傳をするやうになつたものです。

牧場はなるべくお馬をかうした自然のまゝの時代にかへしてやつて、そこで氣儘自由に大きくならせてやるところです。

四歳になるところで軍隊に入るお馬は、兵隊検査を受けます。生れつき弱い馬や、身體の具合の悪い馬は、將來軍隊のお馬になつて、兵隊さんと一緒に、猛烈な演習をしたり、萬一の場合には敵の弾丸の中を駆けまはつてお國の爲に盡くすことは出来ません。そこで兵隊さんと同じやうに陸軍の獸醫さんから綿密な検査を受けて、見事に甲種合格になつた馬だけが、目出度く入營するのです。

入營するには、やつぱり兵隊さんと一緒にやうに、歩兵、騎兵、砲兵、輜重兵等のいろいろの聯隊に分れます。背がすらりとしてはしつこさうな馬が先づ騎兵隊に入營します。背は低くつてもでっぷり肥つてて力の強さうなのは砲兵隊へ入つて、重い大砲や砲弾を曳つぱるのです。

そこで新兵として騎兵の聯隊に入營した四歳——皆さんよりは弟ですね——のお馬が、一人前の軍馬になつて演習や戦争に出られるやうになるまでのお話に移りませう。

先づ始めには人を恐れないやうに馴らされることが大切です。いくら懶巧なお馬でも、野原や山で育つて人間をあまり見馴れてゐない間は、おつかながつて噛みついたり、蹴つたりします。それをよく人になつかすには、何よりもお馬を可愛がつてやるといふことが大切です。手荒な取扱をしたり、いやめたりするごとく、お馬は人間はこはいものだと思ひ込んで、さうしてもこれに馴れません。これは猫や犬を馴らすのと同じです。又、人間の居ない山や野原から東京のやうな大きな町の聯隊に入つて来ますごとく、電車や自動車が走つてゐて、あたりのさうざうしさは、見るもの聞くものがお馬にこつては驚ろきの種でせう。皆さんが始めてのこころへ遠足に行つて、珍しいものを生れて始めて見たり聞いたりした時のことを考へてご覧んなさい。例へば始めて海を見た時、皆さんはどんな気持ちがしましたか。それでも皆さんは、海を見ない先きから、繪を見たり、お話を聞いたりして、海のことを知つてゐたでせう。けれども山の中で何にも知らずに飛び廻つてゐたお馬には、電車や自動車のお話をしてくれる人也没有。繪本を見せ

てくれる人也没有。そゝへ、いきなり、ゴーッカバカリに地響きを立てゝ走つて行く省線電車や汽車を見せるのですから、耐まりません。大ていの馬はびつくり走ります。それをよく人になつかすには、何よりもお馬を可愛がつてやるといふことが大切です。手荒な取扱をしたり、いやめたりするごとく、お馬は人間はこはいものだと思ひ込んで、さうしてもこれに馴れません。これは猫や犬を馴らすのと同じです。又、人間の居ない山や野原から東京のやうな大きな町の聯隊に入つて来ますごとく、電車や自動車が走つてゐて、あたりのさうざうしさは、見るもの聞くものがお馬にこつては驚ろきの種でせう。皆さんが始めてのこころへ遠足に行つて、珍しいものを生れて始めて見たり聞いたりした時のことを考へてご覧んなさい。例へば始めて海を見た時、皆さんはどんな気持ちがしましたか。

背中に馬乗りされたことはないのですから、いきなりそんなこゝでもしようものなら、びつくりして、振り落ささうこ跳ねまはるに相違ないのでです。そこで最初は鞍だけを載せるのです。それだけのことをするのにも怒つたり、なだめたり、人蔥でお機嫌をこつたり、大變な苦勞です。やつこ

てくれる人也没有。そゝへ、いきなり、ゴーッカバカリに地響きを立てゝ走つて行く省線電車や汽車を見せるには、何度も／＼さうした場所につれて行つて、根氣よくそれに慣れさせる他ないのでです。その他戦争に行けば大砲や戦車や機關銃の響きが天地もゆらぐばかりに轟きわたるのですから、それ等の音にも馴れさせねばなりません。何しろ、人間の言葉がわからない相手ですから一通りや二通りの苦心ではあります。

次にはいよいよ人を乗つける練習ですが、これも容易なこゝではないのです。今まで生れてから一度も人になんか始めて海を見た時、皆さんはどんな気持ちがしましたか。それでも皆さんは、海を見ない先きから、繪を見たり、お話を聞いたりして、海のことを知つてゐたでせう。けれども山の中で何にも知らずに飛び廻つてゐたお馬には、電車や自動車のお話をしてくれる人也没有。繪本を見せたり、人蔥でお機嫌をこつたり、大變な苦勞です。やつこ

鞍だけが載つけられるやうになる。今度は人の乗つた兄さんのお馬——それはもうすつさ前に入營して、やつぱり同じやうにして一人前のお馬に仕上げられた連中です——の間に入つて、いろんな運動を教はります。

人が乗れるやうになつてからも、なか／＼一人前の馬になるまでは容易なこではないのです。手綱を引かれ／＼ば止まるのだ、拍車があたれば駆けだすのだ／＼ふ風に、一つ／＼教へられてゆくのです。これを調教／＼ひます。お馬にいろいろのことを教へこむことです。この仕事は仲々むづかしいので、普通の兵隊さんではなく、何年も何年もお馬と一緒に暮らして、お馬の氣性もすつかり呑み込み、馬乗りも上手なお父さんがするのです。それでも時々いろいろの間違ひが起ります。新兵の馬に乗つて、教へながら歩いて居た時、道ばたに落ちてた紙切れが、風に吹かれ、バッ／＼飛び上つたのに、お馬が驚いて氣が狂つたやうに飛び出して、こう／＼歩いてゐた人に怪我をさせ、乗つてゐた人をも振り落して、氣を失はせたといふやうな話は珍しくありません。

かうして窮屈な思ひや苦しい目にあひ乍ら、教はる方も樂ではありませんが、教へる人の方もそれは／＼一方ならぬ苦勞をして、一年の間はぎんなり雨の降る日も、風の吹く日も、一日も休まずに調教します。でないミ、折角、前の日までに覚えたこゝを、途中で休む／＼すぐに忘れて失ふからです。お馬の中にも忘れっぽいのや、物覚えの悪いのがありますし、又なか／＼利かん氣の暴れん坊もあります。そんなのは、ひざく叱られます。一年で漸く、一通りのことを覚え、二年目からは兵隊さんと一緒に演習や行軍をするのです。ですから、つまりお馬は五歳で一人前のお馬になるわけです。そして大體十五六歳から二十歳くらいまで働きます。十五にもなればもうお馬はお爺さんになつて、元氣がなくなります。そして若いお馬の中に交つて駆けまはつたり、跳びまはたりするこゝが出来ないやうになる。小さい荷物をゆづくり運んでゆくやうな仕事の方へかはられます、皆さんのが道で見かける馬車を引いてゐるお馬は、たいていかうした老寄りのお馬です。若い元氣のいゝ時に、お國の爲めにさんざん働いて來たお馬です、ですか

皆さんご存知でせう。

らおさんも、さうしたお馬を見たら、温かい氣持ちで見てやらねばなりません。棒つ切れでお尻をつゝいたりしてはいけません。

お馬の生活

兵隊さんと一緒に暮らして居るお馬はどんな一日／＼を送つて居るのでせう。

先づお馬のお家ですが、これはまん中に廊下のある長い建物の中の兩側に、一つづゝ、お部屋をもらつてゐるのです。お馬も人間と同じやうに、御飯は朝ごお晩の三回です。お馬も人間と同じやうに、御飯は朝ごお晩の三回です。何しろあんな大きな圖體ですから、するぶん食べます。お金にして一日一圓ぐらゐです。それに水をがぶ／＼飲みます。人間も水が無くては生きてゐられませんが、一日ぐらゐは何ごとか我慢が出来ませう。けれどもお馬は一日も水が無くつては生きてゐられないのです。朝起きた時、演習に出かける時、歸つた時、夜寝る前ごと、何度もわけて、たらふくお水を飲ましてもらひます。ご飯の方は、いくらでも食べさせます。お腹をこはしますので、一日の分量がちやんと極められてありますが、水は飲みたいだけしてやります。お部屋の入口にはそのお馬の名札がかゝつてゐます。お馬に名があるかつてさう馬鹿にしたものではありません。草の名だとか、星の名だとか、何にかお相撲さんのやうな堂々たる名前をもらつてゐるものもあります。

天皇陛下をお乗せしてゐる眞白いお馬が、白雪ごとのは

お部屋の隅っこに大きなお皿が三つつけてあります。この中へ、麥やたつもろこし等の御飯を入れてもらうのです。お馬も人間と同じやうに、御飯は朝ごお晩の三回です。お馬も人間と同じやうに、御飯は朝ごお晩の三回です。何しろあんな大きな圖體ですから、するぶん食べます。お金にして一日一圓ぐらゐです。それに水をがぶ／＼飲みます。人間も水が無くては生きてゐられませんが、一日ぐらゐは何ごとか我慢が出来ませう。けれどもお馬は一日も水が無くつては生きてゐられないのです。朝起きた時、演習に出かける時、歸つた時、夜寝る前ごと、何度もわけて、たらふくお水を飲ましてもらひます。ご飯の方は、いくらでも食べさせます。お腹をこはしますので、一日の分量がちやんと極められてありますが、水は飲みたいだけ飲ます。ここになつて居るのです。

朝の五時に、自分達のご主人である兵隊さんが起き出します。お馬に名があるかつてさう馬鹿にしたものではありません。草の名だとか、星の名だとか、何にかお相撲さんのやうな堂々たる名前をもらつてゐるものもあります。それはこの前にお話した通り、爪を磨き、毛並に櫛を入れてくれるのです。そしてご飯を頂きます。お馬たちが朝ご飯

が済んで、も少し欲しいなアと思つてゐる。もう兵隊さん達は自分の朝ご飯を済ませ、銃や剣に身ごしらへして演習に出かけて來ます。そして鞍を背中にこりつけられて、一緒に練兵場に出て行きます。演習はする分苦しいことはあります、又廣い野原や山々を存分に駆け廻つて、青草のにおひを嗅ぐことは、狡苦しいお部屋に閉ぢこもつてゐるよりは、こんなに面白いか知れません。けれども、晝も夜もご飯は外でかんたんに済ませて、一日中ぶつ通しで演習をやらされるやうな時には、お馬も家を戀しがつて早く歸ります。

お馬がなか／＼懶巧なことは何べんも言ひましたが、自分達のお家である聯隊から五六里の近所の道は大てい覚えています。なんかのはずみに、乗り手から離れたお馬が、たつた一人で遠方から聯隊へ歸つて來たやうなお話はいくつもあります。ですから、苦しい演習をぶつ通しでやつて夜おそくなつた時など、演習が終つていざ歸らうと、お馬の首を聯隊の方へ向けると、とても元氣ついてトコ／＼早く歩き出すのです。お家へ歸れば、柔らかい寝床で御馳

走が待つてゐることを知つてゐるからです。

さて、演習から歸つて來る、前に言つたやうに、すつかり身體の汗や埃を拂つて貰ひ、足を洗つてもらつて、夜の九時の御馳走や御褒美の人募なさを頂きます。そして夜の九時半頃も一度水を飲ませてくれる、兵隊さんも兵舎の方に歸つて寝ます。これから朝までお馬も休むのですが、皆さん！　お馬は何時間くらゐ眠ると思ひますか。あんな大きな身體で、一日中人を乗せて飛び廻るのだから、夜はさぞ疲れて何時間も、ぐつすり眠るのだと思ふでせうが、實はたつた一時間ぐらゐです。お父さんの友達は、やつぱり頭を使はないでのんきだからだらう、と言つてゐましたが、さアどんなものでせう。

それに、お馬は眠る時に四脚で立つたまゝ睡ります。横になつて脚を投げ出して寝てゐるのは、大變にくたびれた時か、さもなくば身體の工合の悪い時なのです。やつぱり大夫人間とは違つてゐますね。

この前から大分いろいろのことをお話しして、皆さんもお馬に就いて一かぎの物識りになつたことゝ思ひます。最後

にこまごまこしたこを少しつけ加へて、このお話をおし
まひにしませう。

皆さんの見る日本の兵隊さんのお馬は、たいてい茶色つ
ぱい色をしてゐるでせう。天皇陛下のお乗りになつてゐる
白雪號のやうな、まつ白のお馬も居るのにます。

あんなに足の先きまで真つ白なのは珍しいこしても、少し
は黒い斑や點々があつて兎も角も白い馬は居ます。これを
蘆毛の馬あしきと言ひます。昔の戦争に出て來る大將の中には蘆
毛の馬に乗つたのが大分あります。又フランスのナポレオ
ンやすつゞ昔のハンニバルといふ大將等も殆んど眞白ましろと言
つていゝお馬に乗つて居ります。けれども今の日本の軍隊
では白い馬は絶対に使ひません。何故だかわかりますか？

次にお馬のくせや性質について少しお話をしませう。

馬は夜もよく見えるのです。ぎんなり眞暗い夜でも平氣
で道のよいこころを選つてドン～歩きます。今頃の戦争
には飛行機が澤山あつて、空から偵察してゐますから、騎
兵のやうな大きな部隊が晝間に歩いてゐるのは、すぐ見つ
かります。そこで夜のうちにソーサー敵に近寄つて居て、
あけ方になつてドーッと攻めかかるやうにするのですが、
若しお馬が夜に目が見えず、大きな提灯をぶら下げねば歩
けないこしたら、こともこんなことは出来ません。直ぐ敵
馬です。これを鹿毛かげと言ひます。中には眞黒いお馬もあります。
これを青毛あおげと言ひます。

お馬は夏には毛が短かく、うすくなつてピカ～した地
肌を出すやうになり、冬には毛が濃く長くなります。シベ
リヤや満洲のやうな寒い所へつれて行きます。一ヶ月も
たつかたゝないうちに、するぶん長い毛になるさうです。

これは、皆さんが夏には薄いシャツ一枚になるのに、冬に
は厚い毛織のジャケツなんかをブク～に着込むのと同じ
です。

してゐれば、お馬がズシ／＼歩いてくれます。

お馬は仲間同志大變仲のよいものです。一ミニコロに集まるごと、よく鼻をつき合はせて、クン／＼言ひ乍ら何か話し合つて居ります。そして仲間から離れて一人になるのを三ても淋しがつて嫌がります。例へ大勢居るミニコロから、一人だけ離れて斥候に行く時など、なか／＼仲間の群れから離れません。中にはぎんに叱つても、勵まして、さうしても一人にならないのがあります。こんなのは斥候なぎには行かれません。

またお馬を一直線に並べるごと、みんなが我れ先きに競争して、先きへ／＼ご出たがります。これもお馬の癖の一つです。騎兵が馬に乗つたまゝ敵に襲ひかかる時には、一直線に廣くひろがつて、わー／＼ミミきの聲を擧げて猛烈に飛び出すのですが、一直線になつてゐるため、平生ではごても出ないやうなスピードが出ます。

お馬が一番嫌ひなのはピカ／＼光るもので、火や水はその爲めに馬が嫌ひます。ちよつとした水溜りでもピカピカ光つてゐるごとなか／＼近寄りません。鐵砲や大砲でも、そ

の音には、ぎんに大きな音でも、割合に早く馴れますが、あの大砲の先きから出るピカッとする光りは、何時までも怖はがります。けれどもいざ戦争となれば、その嫌な火や水の中へでも飛び込むのです。

終りに、馬の障碍はさのくらる高く飛べるのかと言ひます、世界のレコードは知りませんが、最もはしつこい元氣のいゝお馬で、一米六〇から七〇ぐらゐです。オリムピックの大障碍競争では、一米六〇の高さで、いろいろの形をしたむづかしい障碍をいくつも／＼つけざまに飛び越えるのです。

では皆さん、お父さんのお馬の話はこれで終ります。今度のオリムピック大會では、日本のお馬がかうした競争に澤山出るでせうが、さうが見事に優勝するやう、應援してやつて下さい。（終）

幼兒教育の文化性

——講習筆記——

倉橋惣三

目次

- 第一 序論
- 第二 道徳教育
- 第三 宗教教育
- 第四 藝術教育

お暑いところ、お互様に御苦勞で御座います。私は本年は色々の都合で、相當澤山な時間お話をすることになりまして、私も相當こたえると思ひますが、皆様の方も一層御迷惑であらうと思ふのであります。

そこで、斯う云ふ様に時間の多い時に、何う云ふお話を申上げるのがいゝか考へたのでありますが、先づ大體に於き

まして、本年は、幼児教育の文化性を申しませうか……其方に属する問題を考へて見度いと思ふのであります。

幼稚園の問題を考へるに就きまして、勿論目的と方法とが離れたものではあります。目的が即ち方法を生み、方法が即ち目的を中に持つて居るものであります。然し取扱ひ方としては、主として目的方面の著眼で行きます行き方と、方法方面の著眼で進んで行きますの二つに分ち得ると思ふのであります。

そこで、多く幼稚園の保育法研究として取扱はれますものは、大體は方法的方面が主になつて居りまして、これが誠に限りなく難しいものであります。そこ迄行つても、これでもういゝ云ふところに行き難い様な厄介な面倒な、骨の折れる、皆様の御苦勞な方面であります。ところが、更に、それに對しまして、目的方面を云ふのもあるのであります。さう云ふ方面を、今回は大體に於て狙つて行かうと思ひますが。そこで今朝は、その全體のお話の序論を言ひますか……本論に入りませぬお話を申上げようと思ひます。

第一序論



一體教育を云ふものは、その教育でありましても、その教育が狙つて居ります、又遠く根ざして居ります眞の目的と、今相手にして居りますところの対象との距離が、教育をして必要ならしむると共に、困難ならしむるものであると云ふ事は申せると思ふのであります。まあ斯う云ふ態度で、何でもない事を態々難しく言つた様な事であります。詰り子供を立派な者にしようとして骨が折れる、と云ふ事であります。小學校の教育でも中等學校の教育でも、又対象それ自身が相當高い所に進んで居ります大學の教育にしましても、それを、より高い所に持つて行かうとする、詰りその距離の差

こでも申しませうか、それが教育を難しくさせるのであります。若しもその目的が、ずつと低い處に手近に下りまして、對象がずつと或處迄競り上つて来る程用意されて居りますならば、これはもう、斯うしようこ云ふ事こ、斯うであるこ云ふ現象こが近付いてゐるのでありますから、こゝに別に教育の問題は必要もない譯であります。

そこで、斯う云ふ風に總ての教育こ云ふものを眺めた時に、幼稚園の教育はさう云ふものであらうか。幼稚園の教育は、その對象即ち幼兒が、世にも程度の低い者であります。實に程度の低い者であります。そこから教育が先づ始めて始まるこ云つた様な初步のものである。教育の目的こ云ふものが何所にありませうこも、その相手の幼兒の程度の低さに對しまして、こゝの距離こ云ふものは相當遠いのであります。この意味で、幼兒教育こ云ふものは實に難しい骨の折れるものだこ考へられるこ思ひます。

そこで、さう考へて、そこから問題が色々分れて参りますが、教育者こ云ふものが、相手に向つて、教育者こして自分が持つて居ります目的は、相手の如何に拘らず同一であるこ言はなければならぬこ思ふのであります。中等學校の教育者は、より高き目的を持ち、小學校教育者はそれより低き目的を持ち、——この論法で、幼稚園教育者はずつと低い教育目的を持つ、こ言ふ事は決して出來ないのであります。教育こは、相手の如何に拘らず、自分が持つて居ります人生究極のこころを遙かなる根ざしこして居るのですから、そこは矢張りされも同じ高さにある。その同じ高さにあるものを、相手に持つて來ますその距離は、幼稚園に於て一番遠い譯であります。幼稚園教育は實に難しいこ云ふのが、そこだと思ひます。私は、幼稚園の先生こは斯う云ふものだこ定義が出來るかこ思ふ。自ら持つて居る教育目的は、世にも最高なるものを持つて居る。それは、幼兒教育者である前に教育者である。ですから、人間教育者こ云ふ意味に於ては實に高いものを幼兒教育者も持つて居るのであります。さう云ふ非常に高い高い、實に高い人生目的を持つて居り乍ら、今取

扱つて居るものは、世にも程度の低いものである。一面には、非常に高いものを持つて居り、低いものを相手にして居る。その遠い距離の間に往來して居ると言ひますかその間に丁度適當なる處置をもつて居る、と言ふか、これ容易ならざる問題であります。幼兒教育者は、目的の高さに於ては他に變らない。即ち教育者であると言ふ意味に於て、決して低い教育をして居るのではありません。けれども、相手云ふものは、世にも低いものである。ですから幼兒教育者は、他の教育者よりもそこで自分の持つて居る目的、今與へようとして居る對象の距り云ふもの、一種特有の位置に置かれて居ると言へるのであります。斯う申しますと、皆様の頭の中に浮びますのは、幼兒教育の目的はそんなに高くない筈だ云ふお説が出るかも知れませぬ。殊にお前等も常に言つて居るではないか、幼兒教育は幼兒に即して行く可きものであつて、そんなに高い目的で幼兒を引張つて行かうとするのは無理な目的である。幼兒教育の本質は基本教育であり、隨つて目的も基本教育的目的であつて、そんなに高い目的でやつて居るのぢやない。それが殊に幼稚園令第一條に現れて、實に何と言ひますか——お手輕く言ひますか、手近く言ひますが、さう云ふ目的に書き現されて居るぢやないか。幼兒を捉へて聖人君子なし、幼兒を捉へて完全なる人間なし、幼兒を捉へて悟りを開かしめる云ふ事は、幼稚園令第一條に書いてない。幼兒を捉へて、僅かに、心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養する云ふ、麓一合目の様な事を目當にして居るのぢやないか。さつきからの話では、大層偉い目的を持ち、それが低い幼兒との間に距りを感じしめる云ふ話だが、幼兒教育の目的は幼稚園令が示して居る如く、そんなに高いものぢやない——斯う言はれるかも知れません。これは一應誠にその通りであります、幼兒を幼兒として何所へ連れて行かうか云ふ事に於ては、あの幼兒に相應しく低められて居ります。基本目的——それが幼兒教育の目的になつて居ります。同じ吉田口なり御殿場なりに兄弟が登山を志して泊つて居ります。折柄お山は快晴、今日こそ山に登る可き朝だ云ふ時に、一番上の兄貴は、

もこより絶頂迄行く事を目的とする。一番小さい子供は、富士山に登るこ云ふのではあるけれども、初めからその小さな足弱な子供を絶頂に連れて行かうとは誰も思はないので、何れ大きくなつたら絶頂に連れて行くけれども、今は一合目迄、こ云ふに定つて居る。それを無理に、小さい子供も大きい兄貴と同じに絶頂迄ぐんぐん張切つて登らせようこすれば、それは無理であり、無茶である。そこで、幼児たる小さい子供には「お前は富士登山を目的とするが、今は一合目を目的とする」こ言ひきかせますし、それで本人も納得する譯であります。さうして恐らく、兄貴が絶頂に登つたこ同じ位の氣持を、一合目で充分味はひ得るであります。この譬が示します如く、幼児教育の目的は、幼児を幼児として何所迄持つて行くかこ云ふ意味に解釋した時に、あの幼稚園令第一條の目的が出て参ります。そこで、若しも皆さんが、あの幼児をあれ以上高いこころに、無理なこころに連れて行かうこなさるならば……私共は常に誠め合つて居りますけれども、然し皆さん御自身教育者として幼児の人生に對して持たれる希望はまあ心身が相當健全ならば宜からう、善良なる性情が漠然こ養はれれば、こ云ふ事ぢやない。若し幼稚園を出まして、相當な年になりました子供が、皆さんのこころにお禮に來まして「爾來心身極めて健全、善良なる性情を涵養されて、そこで止つて居ります」こ云ふのであつたならば、これは甚だ、喜ばしい事ぢやない。幼稚園のこころでは、あれを自當にして居りますけれども、然しあの子供を、終ひにはどこに到らせようかこ云ふ教育目的としては、皆さんはぐんぐん高いものを持つて居られるのであるこ思ふのであります。こゝのこころを私は、分り切つて居る事でありますけれども、今回はハッキリ確めて見度いこ思ふのであります。



幼兒を幼兒として何所迄持つて行く可きかこ云ふそのきまりこ、皆さんが、あの子の將來をざんなものにしようかこ考へていらっしゃる人生教育の目的こは、必ずしも一つぢやありません。その問題に就て、又こんな事が考へられるこ思ふ

のであります。

若しも皆様が、あの幼兒を、人間として國民として、そこまで究極に持つて行かうとする目的の高きものがないならば、幼稚園の目的も、あの通り書かなくても宜しいかと思ふ位であります。若し皆様が、教育目的として非常に程度の低いお手柔かなこゝしか、人生に於て考へていらつしやらないとするならば、幼稚園令は、斯う書いてもいゝんです。「承る」ところによれば、保姆さんの人生目的は幼兒相當の程度に過ぎざる由、さうかそれを然る可く幼兒にお與へ下されば、決して過ぐるところなかる可く、宜しくおやり下さい」斯う言へば宜しい。けれども事實は反対でありますと、皆さんはあの幼兒を、つも高い所に連れて行かう云ふ教育目的、人生目的の所有者であるから、危険で仕様がないのです。あんな小さい子供を引張つて、兎に角ぐん／＼自分の足に任せて絶頂に連れて行かうとする危険が非常に多いのであります。そこで懃々今度斯う云ふ言葉で現す、皆様が幼兒を連れて行かうとする行先は、實に世にも遙けきものを目指し乍ら、今お連れ下さるものは幼兒である事をお忘れなく、何分ともお手柔かにお願ひ致し度い。

そこで「心身を健全に發達し、善良なる性情を涵養する」云ふ基本性のところに皆様の目的を喰ひ止めて置かうとする、斯う云ふ必要があつてあれが出て居ると言へる思ふのであります。まさか皆様は、幼稚園の子供こそその日暮しに遊びほうけて了はうとする方ぢやない。若し遊びほうけて了はうとするそれだけの……夜が明けて日が暮れればいゝ云ふ丈であるならば、あの幼稚園令第一條の目的も、皆様を彼所迄目的に於て引張り上げて來る意志になりますすけれども、決してさうぢやない。皆さんがえらい高い目的を持つて、熱情の送りこ熱意の盛なる……さうかして幼兒をグツミ引張つて行かうとなさるうじも限らない時は、上級でさせるかも分らぬ云ふ様な事を幼兒に要求され兼ねない。御熱心な方のお詫びですから……。

こんなことは、餘り當り前の事でありますから、何を言つて居るか却つてお分りにならないかも知れませぬが、詰り皆様が人生目的の高いものを持つて居る人だから、それを認めて尊重して、けれども幼児に向けていらっしゃる時はこの程度において下さらなければならぬのであります。これをお願する意味で示して居りますのが、あの幼稚園令の示して居る幼稚園の目的であります。

若しさうならば、あの幼稚園令が示して居ります基本目的を云ふものは、幼児を幼児として教育する時のおの要求であります、幼児を幼児として教育するその要求を云ふ事は幼児を幼児として置くを云ふ丈の意味ではなくて——それなら又極めて簡単であります——皆さんが終ひには幼児を連れて行かうとする最高の目的を聯關して居るものでなければならぬのであります。「お前はまだ小さい子である、絶頂迄登るを云ふ事は早過ぎる、だから下のところに居ろ」と言つて、マイナス一合目なんぞ云ふ處に連れて行く必要はないからうと思ふ、又、「絶頂に登るなんて生意氣だから、此處等をプラプラ廻つて居ろ」など云ふのは餘計であります。だから目指す處は爪先上り、向ふに上つて居るのであります。方向は一定して居るのであります。その方向が一定して居つて、その幼児を云ふ對象に屬するのはどう云ふのか、云ふので、あの幼稚園生活のあの目的が改良されて、あゝ決めてある事になつて居るのであります。

斯う云ふ事を改めて申上げるのは、皆様が若し幼稚園に於て、教育者としてあすこだけ以上の何ものも持つていらつしやらなかつたならば……何を申しませうかな……御氣樂な事で御座います。誠に御氣樂な事で御座います。誠にお涼しい事で御座います。斯う云ふ事を言ひ度い爲であります。時々お目にかかる方に御様子が餘りスマートなためにさう見えるのかも知れませぬが——相當ケロリとした方を屢々お見受けします。「幼児を教育する……何、一寸心身を健全ならしめて置けば宜しい、善良なる性情を基本的に一寸涵養して置けば宜しい、薄色に染め上げて置けば宜しい、それだけよ。それ以

上しろとも言はないし、私だつてしようとも思はぬし、幼児教育では先生も幼兒的である」と、いとも可愛らしい顔をしていらっしゃる。（笑聲）これで、幼稚園令が示して居る要求には合しますから、それで結構です。それが逆で「どうも日本の幼稚園令は實に人を馬鹿にしたもので、あんな程度で我慢出来るもんか」と云ふ熱烈慷慨悲憤の保姆諸君が幼児を捉まへて「心身健全以上、尠くも双葉山程度、善良なる性情涵養以上、専くもえらい宗教とえらい藝術とえらい道徳とを持つて居る者迄に、私はこの子が學齡に達する迄に、そこまで仕上げて了」と云ふ熱烈な方があつたら、幼稚園丸焼けになるのです。實に幼稚園が焦げて了ふのであります。（笑聲）熱くて仕様がない。それに較べれば、何時も涼しく、幼児を幼兒として取扱ふと言つてケロリとしていらっしゃる方が間違があります。」（イヤ、物事は、萬事、なんで御座います。控へ目で御座ります。腹八分目で御座います）と仰言るから「あなたはよく八分目でいらっしゃる」と言ふ。「私は食慾が御座いません。胃が弱う御座います」と言ふ。それなら八分目もちつともえらくない。食ひたきは食ひたきなり、今實に食ひ度いが、今の任務上そこにおく。と云ふのでなければ意味をなさぬとも思ふのであります。

○

私は斯う云ふ事を一結論として申上げ度い。さうも幼稚園と云ふものが、何となく方法的に幼児に適すると云ふ事を以て、幼稚園の全部になつて了つた、その幼稚園の中に先生が居り、その先生が持つていらつしやるべき筈のものが少し足りない——ではないか。私はよく、ミッショニ系の幼稚園に就て何んのかんのと云ふ批判を下す事があります。又お寺さんの方でやつていらつしやる宗教主義幼稚園の場合に於ても、相當非難を試みる場合があります。それは屢々——後で又申す事であります——その先生の高い宗教生活に迄子供を直ぐに連れて行かうと方法的に誤る危険があるからです。そこを警戒するのであります。然し乍らさうは申しますけれども、あの宗教的信念をバツクにして居られる方がやつてい

らつしやる幼稚園には、方法的に間違が起る危険は往々ありますけれども、道にその教育そのものゝバツク、その従事してお出でになります先生方の信念の上に、幼児に臨む前に持つて居るえらいものがありますので、道にそこは立派な幼稚園だと思ふ事が度々ある。方法的には少しきつ過ぎるな、と思ふ事もありますが、それ程にそこのこところは實に教育が相當の濃厚さをもつて居るのを感じさせられる。これに較べまして一般的の幼稚園——宗教云ふだけではありませぬが、さう云ふ何等特殊性のない場合に於きましては、方法的には實に素直であり、幼稚園らしい方法がさられて居つて、幼児はいこも樂々にやつて居りますけれども、それ以上何物もそこにはない事を感ずる事があります。そこに幼児教育の心理的正しさがあるだけで幼児教育の心理學的方法的正しさがあるだけで、教育的偉大さも、教育的熱烈さも、教育的にその幼稚園を生み出して来る原動力も感ぜられない場合があつたりします。あつさりした幼稚園、さつぱりした幼稚園、そこには幼児を、その心理的特質に於て即ち幼児の弱さに於て間違なく心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養する云ふ、一種の自然主義的の正しさがあるだけで、教育的な何の理念がそれを支配して居るか云ふ事になつて來ます、まあ極言すれば極めて他愛のないものが少くなくなかつたりするのであります。



私は外國で色々、所謂非常に信念のある人のやつていらつしやる幼稚園を見ました。その時に、口では言へませぬが、そこでは決して無理な無茶な事をやつちや居らない。實に幼児に相應しい方法を、いこもなだらかに素直に愉快に、實に幼児の花園として作つて居られるのでありますけれども、何だかサムシングモア——世界教育會議が近付きますのでちょい／＼英語が出て申譯ありませぬが——（笑聲）——他のものが、何等か感ぜられる事がある。

フレーベル云ふ人は、児童の自己發達云ふ事を認めて、その自己發達の心理的意義を發展させて、それによつてフ

フレーベル獨特のキンダーガルテンを作つたのであると謂はれて居ります。——確かにさうであります。この點を捉へてフレーベルを論ずる教育史家は、フレーベルを心理學派に置きます。教育史上に於ける心理學派の中に入れて居ります。けれどもフレーベルの幼稚園はそれだけのものぢやない。幼稚園は自己活動に基いてそこから出て來たのでありますけれども、フレーベルその人の教育は、もう少し他のものから出て居ります。早い話が、フレーベルの「人の教育」を御覽になりますと、「きなり自己活動」「おゝ、園よ園よ園よ、……」と書いてあるかと思ふござうでない。初めは人生論が哲學的に八箇しく書いてある。神と一致、人と一致、自然と一致、この三つを以て教育の大きな目的として居ります。その目的を持つて、居つての自己活動の尊重なのであります。若しもフレーベルのその方面を主にして、フレーベルを味ひ、研究するならば、教育史の上でフレーベルは心理學派に屬するよりも、哲學派に屬すると言ひますか、一種の理想派に属する人であります。こゝの點を私はよく考へたい。

○

世間では、幼稚園と云ふものをさう見て居りませうか。世間が幼稚園をさう見るかと云ふ事に就て、そんなに氣にする譯ぢやないが、幼稚園と云ふものの、主義から得られる認識が、勿論世間の人は何も分りませぬから、折角皆様が御苦勞になつて居ります事なきが分らぬであります。けれどもこゝによつたらば、幼稚園を百パーセント一杯に理解して見たところで、こゝに幼兒生活の自然があるだけであつて、そこに崇高なる、仰ぐ可き教育が、目的々に先生に於て持たれて居るこゝ云ふ事がないならば、世間は幼稚園を輕く見ます。この意味で、私は幼稚園と云ふものの中では自然的にやつて居りますけれども、その自然的にやつて居りますバックには、矢張り大きな教育目的、人生目的があつての事である筈であり、なければならぬものだと云ふ事を考へ度い、それが今回のお話の筋であります。但し私はこのお話を於て、非常な危険

を思つても居ります。折角く皆さんが、あの幼兒こどもはかけ離れて居る程の高い人生目的を、ぢつと藏つて置くか胸の中に入れて置くか、一番便利なのはハンドバックにでも入れて幼稚園に持つていらつしやつて、さうして而も幼兒には幼兒には相應しく、幼兒こども云ふだけである通り幼兒の様になりきつていらつしやるその御苦心を、私が今度言ふ様な事を餘り力説して行きまして、皆さんが幼兒から元に還つて、幼兒から離れて了ふこなる。教育なればこそ無理な……無理こそ即ち教育なれ、こ言つたやり方にかへつて了つては實に大變です。これは非常な危険を感じるのであります。若しさうなりますならば、幼稚園を幼稚園こども園として建設して行く百の理論も、今迄の御研究も、實に一朝にしてフツ飛んで了ふのであります。けれども私は此處で斯うやつて皆さんにお目にかかり、皆さんが幼兒の方に即して行く事に於ては、決して決して、それを失ふ様な危険の無い方である事を信ずる。皆さんは金輪際幼兒から離れない人であります。それで私は安心して今度のお話をします。

一體幼稚園の保母ほぼ云ふ方は幼兒にくつゝく天才であります。教育をしようと思つて幼兒のこころに行つても、つひ幼兒にひかされて了ふこなふ天才である。衛生を守らうまつさう思ひ乍ら、お饅頭を見るこ直ぐに手を出す私の様な天才であります。(笑聲)そこでその元來の天才が、幼稚園は幼兒の方にギュッぎゅうに行かれるここに就ては少しも懸念しないでいいいゝであります。若し萬一にも、教育目的論を本體ほんたいとして、それで幼兒をさうする、教育目的論そのものでさうするこなふ事になつたならば、これは非常な危険であります。私達が常に口を極めて攻撃致しますあの誤れる幼兒教育になつて仕舞ふのであります。さういふ幼稚園は幼兒の幼稚園でなく目的の幼稚園になつて仕舞ふ。即ち、教育目的のぞみの間に、幼兒教育者を挾まないやり方であります。教育目的、幼兒、それを横から眺めて、何か此方こちら結びつく様にする、さう云ふやう方……中には、幼兒こども教育目的をゴムの様に思つていらつしやる人がある。幼兒の方に目的を引張り、目的の方に幼

児を引張つて居る。さうしてこゝでくつ付けて、幼兒生活と教育目的と此處で合致せり。と言つて居る。さうして、離るるごバチング戻つて来る事になる。或はそれを離さないで結びつけるご幼兒の方が、パンツ、目的の方に行つて了ふ。幼兒は教育せられたり、然し幼兒は失へり。皆さん、さう云ふ幼稚園を御覽になる事があるご思ふのであります。「教育目的ではつたから見に来て下さい」ご言ふので行つて見るご、幼兒は其處に一人も居ない。教育目的のお化の様なものがあつて、「幼兒は何處に居ります?」と言ふご「昨日迄は憐れむべき幼兒であつたが、本日からは教育目的の権化になつた」ご仰言る。(笑聲)さうするご、これは容易ならざる事である。「これは、目的幼稚園、天上幼稚園、幼兒の幼稚園でないんですね」。と言つてもその方は分らないで「折角骨を折つたごころを見てくれ」と仰言る。さう云ふ事になるのは實に困りますから、何所迄も幼兒を幼兒として、どんなによくなつたごころで、心身健全の發達と、善良なる性情の掛けき涵養位のごころに置かうとするのですけれども、さあ又それだけでいいだらうか。教育目的と云ふものには、もつと高いものがある筈なのに、斯う云ふ事を考へ直す必要があるご思ふのであります。

この意味で、私が今迄多く餘り觸れ度くないご思ひました或は道徳と幼兒との關係、或は藝術と幼兒との關係、或は宗教と幼兒との關係、そんな風なごころを今年は少し扱つて見度いご斯う思ふのであります。幼兒の生活を如何にしながらに生かさうか、ご云ふお話を、私は捨てたんぢやありません。捨てるごころぢやない。それを基礎にして、それに信頼して、それがあるごことを安心すればこそです。けれども又人生の文化には、あの高いものがありますから、それと幼稚園の間に考察をもつて行く事も必要である、斯う考へるのであります。

若しこれだけの前置を置いて、名前をつけますならば、今度のお話は幼稚園の文化的考察と言つても宜しいのであります。幼稚園の心理學的考察に對しまして、幼稚園の文化的考察としても宜しい。唯然しこんな題を先に出しますと實に危

險になりまして、折角く吾々が、そこには幼稚園の幼稚園らしさを置かうとして居りますする幼兒の自然が、ぶちこはされて丁ふ。造り花許り絢爛に咲いて、眞のない花園が出來る事を惧れますから、斯う云ふ題を出さうとしませぬ。たゞ幼稚園云ふものは、私共が何時も申します如く、小さき苗のところをやつて居るのですけれども、その究極の目的は、實に絢爛たる滿開の文化云ふものが、遙けき向ふにあつて、それ繋つて居るところがなければならないぢやないかと申すのであります。こんな意味で、さう云ふ文化的の問題を少し取出して、御一緒に考へて見るところにいたしませう。

第一一 道徳教育

その第一としまして、今日は、道徳教育云ふ問題をこゝに出して置きます。「道徳教育」云ふ言葉は、これは幼稚園の言葉云ふよりも、教育全體の言葉でありまして、詰りまあ大きな言葉であります。吾々は、相手が中學生であらうと大學生であらうと、又は幼稚園の子供であらうと、それに向つて道徳教育をしようとするのであります。唯その道徳教育云ふものゝ持つて行き方は、その年齢のこころで違つて居る。これは申す迄もない。然しその道徳教育云ふ事のその大きな狙ひ所、これをもとにしませぬと、幼稚園に於ける教育も、極く目の前的な、その場的な、或は殆ど教育としてのその深さを持たない云ふ様な事にもなります。

そこで、先づ道徳教育云ふ事を問題に致します。その道徳教育云ふ事を問題にするに就きまして、道徳教育云ふ教育學上の問題をその儘研究する事は、これは極めて大事な事であります、少しこゝの講習としては根本に入り過ぎませう。即ち倫理學全體のお話になる云ふ譯であります。そこで、此處では、幼兒教育へ始終關係を持ちまして、その關係の一なる點に於て道徳教育を考察して見る事に致します。

○

そこで道德教育を云ふものは、要するに人間をして道德生活を全からしめる事であります。全からしめる事であります
が、その道德生活を全からしめる云ふ事は、二つの意味を持つのでありますて、一つは横に擴つて……申しますか、
道德生活を云ふものゝ中に含まれ来る所のあらゆる方面、色々な方面——或は親に孝行でありますとか、友達に親切とか、
實に澤山道德がある譯であります、かういふ方面を考へる外に道德生活としての純粹生活を言ひますか、斯う云ふもの
を一ぱいに純粹に持つて居れば、一種の完全なる道德生活を言へるといふ方面があります。即ち德目的に、あらゆる事に
於て落度のない人であり、缺陷のない人であつても、その生活態度を根本に置きまして、道德的云ふ言葉に完全に相當
せられない様な所謂不純なるものがありましたならば、或はそこに弱いものがありましたならば、これは完全なる道德生
活をして居ると言へないのであります。

即ち道德生活の大手な意味は、その場へ、その事へに於て、どう云ふ風な事を適切に正しく間違なくやつて行くか
を云ふ意味のみならずして、道德生活そのものゝ根本的態度をいふものが非常に大事な問題になつて來るのであります。
そこでその擴りに於ての各様の道德生活、その一つ々々のことは此處で一々問題にして居られませぬが、根本の態度の方
の問題に就て考へて見る事が出来るのであります。

そこでその道德的生活、即ちつまり善をなすのであります、その善をなすに就きまして、根本態度として是非欲しい
ものが色々ある。その態度の本當のところをどう云ふ風に考へるか云ふ事をハツキリして置きませぬ。即ち幼兒教育
を其方へ結びつけてして行く事が巧く出來ない様になるのであります。

態度を云ふ事で、もう一度申します。人間が——まあ、お互が、と言つてもいゝのであります——正しい純なる生活

を道徳的に誤りなくなし得るかさうかは、勿論此方の道徳態度如何によりますけれども、然しそれが實現する事の巧く行くか行かぬか云ふ事は、外の事情だの色々の事に依るのであります。言ひ換へれば嘘をいはない人が、必ずしも生活態度に於て本當に道徳的であるこ限りませぬ。或は嘘を言ふ人が、その嘘一つに於てその人の道徳生活が盡く失はれるこも限りませぬ。言ひ換へれば、その嘘を言ふか正直をやるか云ふのは、そこの色々の事情に依るのであります。まあ謂はば樂々正直の言へる事もありますし、正直を言ふには非常に骨の折れる事もありませう。のみならず、斯う云ふ事さへもあるであらうこ思ふのであります。生活態度そのものが極めていゝ加減であるが故に、樂々正直が出來て行つて、生活態度そのものが本當に道徳的であるが故に、そこでやつて居ります事では、正直が樂に出來ないこ云ふ事もあるかと思ふのであります。我々が恥を知らず、人に迷惑をかけても平氣であるこ云ふ態度でありましたならば、多分樂々あらゆる場合に正直で通して行けます。然し餘り恥を知つて、自ら正直にして行く事の辛さが深刻である場合には、そこから嘘を言ふかも知れませぬ。普通は、逃れる爲にするく嘘を言うて居ますけれども、さう許りこも限らぬかも知れませぬ。或は又、人に迷惑を及すこことを恐れてその細やかな氣持から嘘を言ふかも知れませぬ。例へば人が、或事を斯うだこ言ひました。それは嘘だこ思ふけれども、その人がさうだこ今言つて居る氣持を深く感じれば、それに向つて、いゝえさうぢやない、こはサラ～く言へないかも知れませぬ。數學なら何でもないのでありますけれども、生活では、もう一つその細やかな味のあるこころが出て來る譯であります。

さう云ふ譯で、その態度そのものが非常に重要な點になつて來る。殊に道徳を道徳として研究して、さう云ふ道徳がよくてさう云ふ道徳が悪いか云ふ事を、倫理學云ふ形で比較研究して居ります時には、いゝ道徳はいゝし、悪い道徳は悪いこ云ふ事に決つて居りますが、又道徳を道徳として細かに穿鑿して行けば、それで済むのであります、道徳教育

云ふ事になります云ふ事、その道德そのものゝ問題ぢやなくて、それをその人間がどうするか云ふ事の、そこに問題がありますから、態度云ふ方面が重要な事になつて来るこ思ふのであります。

そこで「善良なる性情を涵養し」云ふ事は、即ち一種の道德教育的大きな基礎に相違ありません。幼ない時から、善良なる性情が涵養せられる事なくして道德生活に發展して行く事はないのであります。又、心身が健全でなくして、道德生活に發展し得る譯もないのです。その心身の健全、善良なる性情を持つて居る云ふ——こゝが一寸面倒な考へ方でありますが、健全なる心身、善良なる性情を養つて置けば、そこから必ずいゝ道德生活が芽を出して來て發展して、生長して行く云ふ確信を、同じく幼兒教育者として持つて居りますから、餘計な事を餘りヤキモキと道德教育の中に於てしないでも、あそこの基本教育をよくして置けば……泥を耕してよく苗を植ゑて置けば、そんなにヤキモキしないでも花が咲くことを確信して居る様なものであります。然し乍ら、それはさうでありますけれども、吾々は教育者でありますからして、さうやつてその自然の發展を安心して居りますだけで、此方の氣は済みませぬ。済まない筈であります。此方は氣持の中で、その子供の道徳生活へ終始中結びつけて考へて居ます。こゝがあつた今年度の話の要點であります。若し斯う云ふ人があつたらさうであります。『心身を健全に發達し、善良なる性情を涵養する』云ふ事が幼稚園令としてある。それだけ兎に角やつた、あなたはもういゝ。これでさうかかるだらう。——例へば畠を耕して苗を植ゑて、あゝして置けば立派に花が咲いて實が成る筈であると言つて、家へ歸つて高枕で晝寝して居られる人は、そこへ來てはそれ以上の事は出来ないのであつて、基本教育でありますから、そこへ來てヤキモキするのはよくないから高枕で寝て居るのでなく、終始中それがさうなるか斯うなるか云ふ事に就て心配して、隨てその生活を斯うして置けばこれでいいんだ云ふだけでなくて、それを積極的に完全なる道徳生活へ持つて行く事は基本教育として許しませぬけれども、せめて消極的に道徳教育に

向ふ様に……妙くも向はないものを、邪魔になるものを退けると云ふ工合に始終そこに意を拂ひ、氣を配る云ふ事は當然な事であらうかと思ふのであります。昨日申しました、今日の幼稚園の一つの傾向が餘りに心理學的に、餘りに基本教育的傾向であつて、そこだけやつて居ればあとは幼兒教育に關するところに非ず云ふ様な事は、これは今日の幼稚園をして實に微力ならしめ、實に無價値ならしめて行く一つの理由になつて居るのぢもあるまい、これは餘り、道徳教育とかその他の大きい目的で引張り過ぎましたから、方法的の誤りがありました。今日は方法的の正しさを考へる事が密であるから、行き過ぎる誤謬はないけれども、何だか幼稚園が、心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養して置けばそれでいい、そこだけであつて、あとは私は知らぬ云ふ様な趣きがあるんだやないか。又若しあつたならば、それが幼稚園教育者の仕事を軽く世に見せる事になるんぢやないか、こんな事も申しました。そこで、さう云ふ意味で道徳教育を云ふ大きな目的の方から、あの幼稚園の子供に對する吾々の氣持を見て行かうとするのであります。

○

その場合に色々な事が考へられるこ思ひますが、道徳教育——即ち生活を道徳的態度に養つて行かうとするに於きまして、先づ第一に重要な事は、眞情を云ふ事であるこ思ふのであります。或はこれを完成させた所迄行きますれば、「誠」とか「誠實」とか云ふ非常に高い、又完全なる道徳觀念に迄築かれて行きますが、妙くも眞情を云ふ事であるこ思ふのであります。詰り「誠實」を云ふ事は、その形から見ますと云ふと、結果から見ますと云ふと、偽りない云ふ事であります。然し生活態度の方から見ますれば、それが本當にその人の中から出て来て居るかどうかを云ふ事であります。道徳は、實に澤山色々な高尚な事があるであります、若しその人の本當から出て來ないものならば、これは道徳生活として完全なるものでない事は決つて居ります。そこで幼兒からその色々な道徳が、本當に自分の中から出て來る様な生活態度、こ

れを吾々は幼児に養ひ度いのであります。こゝらの事は、改めて申す迄もない分り切つた事であります。その、本當に自分から出て来る生活態度を養ふ、これは皆様は餘りいゝ子供達を知つてお出でになり、皆さん御自身が既にいゝ教育をしてお出でになりますから、餘りに知れ切つた事でお分りにならぬこ思ひますが、時に誤れる教育に於きましては、道徳教育云々事を此方が考へる爲に寧ろ反対の結果の起りさうな事をやる事が多いものであります。

こ云ふのは、即ち例へば唯外から、斯う云ふ時には斯うすべきであるこ云ふ道徳的處理こ言ひますか、處置こ言ひますか、仕方こ言ひますか、さう云ふ事を教へる場合が尠くないのであります。吾々は子供によく「さう云ふ時には斯うするものよ。」斯うするものよ、こ云ふ言葉を使ひます。斯うするものよ、こ云ふ言葉は、——言葉に捉れるんぢやありませぬけれども——さうする譯が何か外にあるこ云ふ響きを持つて居るのであります。そこでその結果こしまして、大變に立派ないゝ事でありませうけれども、さうすべきものなんだからさうするこ云ふ傾向が直ぐにその通り訓練される譯ではありませぬが、さう云ふ風に養はれて行くさう云ふ暗示を受けられる事に依て、折角中から出て來ようとするものを出させないのであります。

第二には、子供が實際中から致しますあの不完全なる道徳生活を、實は誠でやります。やりますが、その誠でやりましたものを、直ぐに意識の上に上せて来るこ云ふ事が、吾々のやり方で、即ち折角子供が唯自分の中から出て來たこ云ふいろで、そこで始めて道徳的態度になつて居るものを、直ぐにその道徳をもう一度子供に意識させるのであります。幼稚園の場合に於きましては、極めて善良なる事がフラツこ出て、自分に氣がつかずにスツこ消えて行く事が必要だこ云ふ事を私は何時でも申して居るのでありますが、そのフラツこ出てその儘消えて行くこ云ふ事は、何故そんな、花火が消えて行く様な、風が吹いて何處かに行つて了ふ様な淡い事を求めるかこ言ひますこ、自分から出ました道徳をもう一度掌に置い

て眺めて見ますと、……眺める云ふ事は、これは道徳そのものとして考へる事になるのであります。詰り自分の生活を批判する事になります。青年等に於きましては、大事な事でありませうが、自分の生活を批判する事になる、批判する云ふ事は、大事な事であります。青年は批判しなくちやならぬ、大人ももさより批判し反省しなければなりませんが、批判する云ふ事は、その道徳を間違なものにして行く道でありますけれども、そのもとのところに對しては、批判云ふ事はある動搖を與へるのであります。例へば、草がつゝ生えて居ります。心なく、唯生えて居ります。生えて居りますが、これがどうしようが——おかしな例ですが——草自ら、自分は生えて居るだらうかと考へて、自分を搖ぶつて見る様な事をしましたら、その根はぐらつくのであります。批判は即ちその根のところに動搖を與へて來ます。その根のところに動きを與へて來る云ふ事は、その、今出て居ります道徳生活そのものを、根のしつかりしたところから動して行く云ふ事で、既に危険な事で、望ましくない事である。のみならず、さう云ふ風な傾向が一回の批判で、次の批判、一回の反省で次の反省云々養はれて行きますところでない中に、先の危険があります。これは大人によくある事であります。何も自分の中から出て来もしないのに、先の事を考へて居ります。詰り道徳をして考へ、それを唯理論的に研究して居るならそれだけですが、その研究的、批判的云々つた様な事を、自分の中から出て来ますものに加へますと、出て来るそこよりも、出た後の事の方が問題になつて來るのであります。これが然し大人の場合ならばもう自ら出る云ふ真心がしつかり養はれて居る後ならば多少の批判を加へた正しい真心そのものがぐらついて來る云ふ事は決してないのであります、まだ極めて弱い出方しか出來ない幼児の場合に於きましては、これは非常に危険な事になるのであります。

さう云ふ意味からしまして、この自分の生活を外から、斯う云ふものだ、斯うすべきものだ、その場合につけて教へられて行きます事や、或は自分から出たのであっても、その出た所の、出た云ふ事實に一杯になつて居ないで、直ぐそ

れをもう一度自分で批判する云ふところに行く傾向、斯う云ふ風になります云ふ事、その子供も決してその子供が善良なる性情云ふ様なことは、そこで出来て居るんですけどもその道徳的生活態度そのものゝ根本に於きまして、正しい方に向けて居る云ふ事は言へない事になるのですけれどもその道徳的生活態度そのものゝ根本に於きまして、正しい方に向けて居る云ふ事は言へない事になるのです。幼稚園の訓育云ふ場合に於ては、道徳が、他の生活活動と共に自發する事を主體と致します。その自發云ふ事は、唯出て来る云ふ丈の心理學的の意味であります。然しこれが唯心理學的にさう云ふものが出て来る云ふ丈でなく、それの持つて居る倫理價値、中から出て来る云ふ事が、出て来る丈でなく、出て来る云ふ、實際に自分から出て来る云ふそれの倫理價値、そこに目をつけて來ます云ふ事が、云か真心云か純心理的なものに止らざる倫理的道徳的のものになるのでありますが、それ迄の事を私は始終考へて居なかつた。唯、善良なる性情の中には涵らして置きましたとしても、本當に道徳生活への教育を今こゝで、その初步的なところであつて居る云ふ事は、正しく行はれなくなつて來るのであります。その真心、その誠、斯う云ふ風なものを非常に大事な問題と考へるのであります。この真心云か誠云ふ事に就きまして、吾々が特に氣をつけなければなりませぬ事は、子供の方は實はさう云ふ他の事は兎に角、真心的傾向を持つて居るものでありますから、それが自然に導かれればさう云ふ様な傾向になつて行くのであります、私の道徳觀云ふものが、その真心云か誠云ふ所にされだけの本當の價値を置いて居るかぎりか云ふ事が、非常な影響を與へて來るのであります。吾々自身の道徳觀が、その誠、真心、さう云ふ風なものから充分に出て居るかぎりか、詰り結果の上に於てよくても悪くても、誠から出て来て居るもの、さうでないものに就て本當に厳格なる神經を吾々が持つて居るかぎりか云ふ事が、これが非常な大事な點になつて來る云ふのであります。私は、幼稚園の先生が幼兒を良し悪しと品定めして居られる時に、その幼兒の行や形や結果等を通して、その人間そのものゝ道徳的生活態度を批判してお出でになる時に、その先生自身が、真心云ふ様なものに就てされ丈の

厳しさを持つて居るかに依て、その批判がそこで違つて來ます。その先生の良い云ふ子供が、他の事では成程良いし、勿論善良なる性情位は涵養されて居りますが、真心云ふ事に就てさうも純でないのを見逃してお出でになる場合……他の事では實にやんちやで駄目で亂暴で、所謂結果の上では道徳的ではないのであります。何所迄もそれが真心であり、誠である云ふ點を非常にしつかりと見付けて、そこに、他の事はどうでもいい云ふ程の値打を置いて、その子供を、良い子云ふ點を御覽になる場合……これは大きな違になつて来る云ふのであります。

○

善良なる性情云は、必ずしも其所迄の厳しい事を申して居るのではありませぬ。然し乍らさう云ふ厳しさを以て子供の道徳生活を見て居て下さる先生か、さうでないか云ふ事は、その子の善良なる性情云ふ程度ぢや大した事はありませんが、將來の道徳生活への本當の態度云としては、非常な影響を與へる云ふのであります。これに對して真心云ふ様な事は、中から出て來るのであります。若し言ふならば、日本精神に於ける道徳の本當の價值云ふ様なものに於ては、この真心云ふ事を非常に重んじて居るのであります。その結果がどうであるか云ふ事にのみ重きを置くのではなく、その真心、誠云ふ様な、其所へ非常な重きを置いて居るのであります。ですからこれは、日本的な言葉であると言つても宜しいのであります。所がその真心云ふ日本のなるそれを、もう少し形を變へまして、その人間の中に、真心云ふのは極めて單純なるその人間の中から本當に出るか出ないか云ふだけの話であります。それをおもう一つ理論づけまして理窟づけまして、日本的にものを考へる時には、餘り理窟づけない、素直に見て行く傾向がありますが、それをおもう一つ理論づけまして來た時に、真心云ふ言葉が、良心的云ふ言葉に置き換へられて來ます。良心的云ふ言葉は、支那の倫理に於きましては良知云ふものであり、ヨーロッパの倫理に於きましてはコンシ

エンス云ふものでありますて、これは真心云ふ日本的な、素直に、涼しいから涼しい、暑いから暑い、氣の毒だから氣の毒だ、云ふその眞情だけでなく、さう云ふ生活が心の中で行はれて行きます手續を分解して、さうしてそこに良心云つた様なものを考へ出して来て、さうして良心的云ふ言葉を使ふのであります。ですからこゝで真心とか誠とか云つて居ります事が、餘りにバーッとして居りますならば、これをもう少し考への上で固めて來た、良心とか、良心的とか云ふ言葉に置き換へて下さつても宜しい。唯こゝで言ひ度い事は、良心云ふ様なものになります云ふと、これはもうそれ自身が段々發達して行くものでありますて、良心そのものとして非常に立派な純なる良心を持つ云ふ様な事は、これは矢張り道徳修養の後の話であります。良心が微格に純に完全に、道徳生活を統制して行く云ふ様な事は、これは倫理生活、道徳生活の全部發達した後の事であります。真心とか誠とかはそれも含んで居りますが、後だけではなく、初めの極く幼稚な、或は原始的な……云ふ事でも言ひ得る事であります。

そこで、良心云ふ大變難しい事になりますからして、此所で、良心的云ふ言葉でものを和らげる、その子の生活が果して善良なる性情の中に美はしく涵つては居りますが、然し言ふ事する事總ての生活態度が、果して良心的なりや否や云ふ事は重大な問題であります。

そこで幼児の道徳教育云ふ場合に於きましては、その子供を良心的なるものに導いて行く云ふ事は、良心を完全なるものにするなん云ふ事は出來ませぬが、良心的なる方法に持つて行く云ふ事は非常に大事な事であるのであります。勿論繰返して申しますが、幼稚園の所でそんな事が完全に出来るものではありませぬ。だからそこでは、そんな事を幼稚園の目的として必ずしも第一に掲げ、求め、要求して居るのぢやありませんけれども、道徳教育云ふ様な大きな目的で子供に向つて行く時に、吾々は先づ第一にその良心的即ち子供の生活の方にその儘出て來る方から言へば、真心

いか誠にか或はそれが生活としてざんなであるかを少し研究……と言ひますか、考へた後の話として、良心的云ふことを行つて宜しいかと思ふのであります。即ち幼児教育に必ずしも良心の教育をしろ、云ふ事はありませぬ。そんなえらいいことを求めませぬ。唯、善良なる性情を涵養し、心身を健全に育て、行けばいいので、そこから良心的なものも出て来るんですけれども、何が出来るか知らないが、何れいゝものが出来るから、わたしは地均しをして、あとはサッサと引上げて行く云ふのでは、餘りに激しい。——幼稚園の庭に、花壇を作つて居ります。それは外から泥を持つて来て拵へる。そこにもつて来て他所から持つて來たものを植ゑて居りますが、泥を作る人は泥だけ作ればいい云ふ丈ではさうか云ふ問題であります。而も私は今迄、善良なる性情そのものを養つて置きさせへすれば、心身を健全にして置けば、後で必ずいゝものが出来るが、その基本をちゃんと置いて置かうぢやないかとそつちを主にして考へましたが、幼稚園云ふ中では、そこより一步も進める事は出来ませぬが、吾々としては、教育者でありますから、そこで子供に向つて道徳教育を矢張りしたいのであります。道徳教育を、幼兒の場合に於ては、先づ良心的云ふ様な生活態度を持つて行かうとするのであります。

先程、中から本當に出る云ふものを無暗に意識させたり、批判したりさせます云ふ、それが却つて崩れて来て、所謂花は咲いて居るが根の浮いて居る植物、云つた様なものになる云ふ斯う考へましたが、その良心的云ふ様なものに言葉を換へて来ます。良心云ふのは、自分の中に自分でないものが一つある云ふ考へた考へ方であります。真心云ふのは、何か、このものそのもの云ふ考へ方であり、良心的云ふのは、自分の中にもう一つ自分を支配する何かがある考へるのであります。その支配する力強いものを養つて行く、そこにざんな問題が起る云ふ事であります。

この事に就きまして極く實際の問題としては、こゝに賞罰を云ふ問題が出て來ます。子供が生活をして居ります時に、それでいか悪いか考へて御覽なさいと斯う云ふのがさつきの話になりますが、もう一つ道德生活に於て通有的に使はれて居りますのは、賞罰であります。これに就て、實際的なお話になりますが、賞罰を一つの問題を取出しますが、賞罰を云ふ問題に就ては、賞罰なごと云ふ事を成可く用ひないがいゝと云ふ話は、これは極めて尤もな話であります。本当に心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養して置けば、そこから適當なものが出て來るから、それこそ力を盡す可きで、後始末の方の賞罰なんかは、吾々の方が充分な事が出來てないから、仕方なく後始末をするので、これが何も自慢になつたものぢやありません。然し乍ら、遺憾乍ら賞罰を云ふ事もしなりやならぬ實狀であるとしまして、その賞罰を云ふ事に就きまして比較をする要があります。「賞」の方は、子供の生活に向つて激勵をして行くのであつて、これは積極的である。「罰」の方は禁じて行くのであつて、これは消極的である。だから「賞」の方が教育的であつて、「罰」の方は成可くしない方がいゝんだ、と云ふあの通俗的な話も出て來るのであります。所がこの問題は實は斯う考へないと本當の事にならぬと思ひます。子供の生活の何所に向つて、賞と罰を持つて行つて居るかと云ふ問題であります。子供の生活の結果を言ひますか、出來榮えと云ひますか、現れた所へ賞罰を持つて行くのでありますならば、今言ひます様な事で問題は終ると思ひます。然しその先生は、さつきから考へました如く、子供の生活の結果に止まつて居るのでなく、それが果して眞心が眞情か、良心的かと云つた所に、終始中氣が向けられて居るすれば、そこに向つて賞罰を言つたとすれば「あなたは實にこんなでもない事をしたけれども矢張り真心であった」と云ふ其所に賞をするか、「あなたはちゃんといたけれども、それは實に憎らしい程不誠實なる、不親切なるものである」と云ふそこに目をつけて行くかと云ふ事が、そこは大きな違であると思ふのであります。即ち賞罰に依りまして、唯子供に良い事をさせるとか悪い事をさせるとか云ふ事だけならば、

獎勵とか禁止とか云ふ單純な話になつて了ひます。それは、いゝ事をすれば賞め、悪い事をすれば叱れば、さう云ふ事は樂々出來る譯であります。

然し乍ら、そんな事が今此所の問題でなくて、道徳的生活態度即ちその眞實、その良心的狙ひをつけて居るこしまして、そこへ賞罰を持つて行くこする、さうした時に、私は斯うなるこ思ふものであります。その賞云ふものは、自分が斯う云ふ事をしたから貰められたんぢやなくて、斯う云ふ生活態度に出て來た眞心で生活した、その所を、幼兒の事でありますから、眞心で生活したければ少し不純なる、いゝ加減な、間に合せ的な事でやつて、自分自身の中ではまだそこの點に就て、餘り細やかな差別を感じませぬ。所が自分の日頃尊敬する、又自分を愛して下さるあの先生が、自分のした事に就て、その所でそんなに喜んでくれるか云ふ事は、その子の氣持を、自分だけでは感じる事の出来ない強さに迄眞心の感じを持たせて行くものこ斯う云ふ事になるのであります。結果ぢやないのであります。何所迄も結果ぢやないのであります。その極くもこの所について、自分が眞心から、誠から、眞情からしました時に、恐らくや子供は、眞心からやつたけれども、その結果としては存外な事が起つて居る事がありませう。それを、側に居る先生が、眞心のこころに就て非常なる祝福を喜びをして下さるこ云ふ時に、人生はそんなものか云ふ事を感じるこ思ふのであります。

又、罰の場合に於きまして、子供はあれで却々實際家でありますから、さう一々深刻なる眞心からのみ生活して居ませぬ。そこで色々な間に合せ的な事もチヨイヽ＼＼やるのでありますと、結果はよく行くのでありますと、そのずるい事、誠でない事をし乍ら、少し許り氣持が悪くて、而も少し許り良心的でない不愉快を感じて居るけれども、結果は済んで居りますから、そこで宜かつたこ自己欺瞞で自らを誤魔化して居る時に、自分より良心的なる先生がハラヽ＼＼涙を流して、子供自ら自分を良心的なりや否や云ふ事をそれまで感じ得ない子供に代つて感じて下さる。さうします云ふこ、斯う

云ふ事をすりやあ賞められるこか、斯う云ふ事をすりやあ叱られるこ云ふ問題でなく、人間生活の態度こ云ふものはそこ迄嚴肅なものだこ云ふ事を、さう考へる譯ではありませぬが、それを一回毎に體験する……と言ひますか、受取つて行くのであります。

子供は、皆さんに依て叱られました時に、二つの場合を生ずるこ思ひます。一つは怖れる場合。これは皆さんの方にも責任があるこ思ふのでありますけれども、子供の心理の方にも、怖れさして、もう斯う云ふ事を二度こさせない程度で叱つて置けばいゝ極めて單純な場合もありませう。然し、怖れるんでなくて、先生が叱るが故にびつくりする場合があるであらうこ思ふのであります。自分では、そんなに叱られる理由があるこも思はないのであります。全體にその子の道徳的振子が緩んで居る、キャラクターとして道徳的眞實性の根本が緩んで居る人間である。その緩みさ加減で一切の事をやつて居る時に、側に居る先生がいゝの悪いの、斯うしろあゝしろのこ云ふ方法的手段的の叱り方でなく、その緩みさ加減に就て、先生自身堪えられなくなりまして、——詰り帶をキチンこ締めて居る人が、ダラリこ締めて居る人を見るこ堪えられなくなつて、後から、知らぬ人の帶を締めて上げる事もありませう。簪が落ちさうになつて居るのを見るこ、ずつこ、さしてやり度くなる事もありませう。——そのしまり方、眞情そのものゝしまり方が違ふのですから、そこで賞罰こ云ふ事は、私は向ふの生活をどうするか斯うするかの手段として行はれる時には、賞罰の問題は實に軽い小さい問題であります。

それは手段に過ぎない問題であります、又こゝに一つの生活を、その誠こか良心的こか云ふ事に於ての感じ方に段の違つた人が居りまして、いゝ加減に事をやつて平氣で居る人こ、ギュッこやらなければ堪らない人こ二つあつて、堪らない人が、身を以て自分に不愉快を感じまして、憤りを發する、さうするこ、此方の者は、そこ迄人生は眞面目な世界も

あるものか、そこ迄人生はしまるものか云ふ事に就てびつくりするのであります。何も幼児をびつくりさせるのが目的ではありませぬけれども、さう云つた意味に於ての效果云ふものがこれが賞罰の、子供にいゝ事を勵まし、悪い事を止めなぞ云ふあの程度の問題とは別な問題が起つて来るのです。子供が何とかうまくやつてさへすれば、根本が誠でなくとも良心的でなくとも平氣で居られる人の側に成長する子供は、さう云ふ平氣な者になるより仕方ありますまい。それが、子供自身はまだ其所迄ても本當には行つて居ますまいけれども、傍に居る者がさう云ふ厳しさを持つて居るその場合には、それが子供に影響して来る。或は皆様はさう云ふ時にさう云ふ風にして叱りますか。「もうするぢやない、今度したら——」云ふあの普通の叱り方少し違つた叱り方がある。よく「あなたはよくまあ……よくまあそんな事が出来た云ふのはそれであります。(笑聲)けれども、しようちう「あなたはよくまあ……」そんな事許り言つて居る譯にいかぬ。所謂教育手段として用ひます賞罰は、子供を眼の前に引据ゑて、此方の賞罰が向ふに通らなければいかぬ。「方法ですかからかうなさいよ。これでもきかなければ、ウム——」が何とか色々やるのであります。然し今私の言つて居るのは、向ふは向ふで小さい子供だから無理もない。決してそれをどうかうするのぢやありません。向ふは小さい子ですからまあ仕様がないけれども、その眞實性の足りない事に就て見ちや居られないから横を向いても本當の叱り方だと私は申すのであります。横を向いちやふ。見ちや居られない。詰り良心的でないものに就きましては、良心的な人間は見て居られない。嫌になつちまふ。つくづく嫌になつちまふ。引張つて來て叱る、叩き云ふより、嫌になつちやふんですから、然らずんば自分が隠れて行くより仕方ないのであります。これは、善良なる性情を涵養し、云つた程度の問題の時には餘り厳しいお話でありますけれども、斯う云ふ事がどこかに経験されるか否か云ふ事は、その子供の將來の道徳性態度がどうなつて行くか、この眞情云ふ事に就てざつなつて行くか云ふ事に於て、非常なる影響を與へるものだと思ふのであります。

勿論斯う申します事は、幼稚園の先生が始終道徳性ヒステリーであつて、道徳性潔白性ミ云ふのであつて、子供がして居る事を一々見ちや居られぬと云つて居る、それを言ふのぢやありません。實に子供の方に即して柔かくだけて居るんですけれども、その生活態度の根本に於て子供が過ちをしたつて失禮をしたつて、そんな事は餘り氣にならないけれども、その生活の末梢末端は氣にならないけれども、あの子の根本の眞情に缺くる所があり、良心的に稀薄なる所がある時に、それがギリギリでは堪らない。さう云ふ風な人に指導されるかどうかミ云ふ事は、大きな問題になつて来るミ思ふのであります。

昔、非常に偉い先生の處へ子供を託して、本當の仕込をして頂くミ云ふのは、さう云ふ場合であつたらしいのであります。即ち眞情ミ云ふ、良心的ミ云ふ事に於て偉大なる人の側に居ります。別にその人がどうするかスうするか、どう教へてくれるかミ云ふのでなくして、さう云ふものに感じて來るのであります。するけたらずるけた儘で、嘘なら嘘の儘で、それで平氣で成長するか、その厳しさを何所かで感じさせられるか、これは違つた問題になるミ思ふのであります。

○

此所で一寸少し問題を離れた事になりますが、その子供のやつて居ります事に就て、子供の事ですから結果等はどうでもいいが、實に眞情、眞心そのものでないが故に堪らなくなつて、ぶつ事もありませう、引き据ゑる事もありませう。ハラハラ涙を流して先生自身向ふに行つて了ふ事もありませう。あのやさしい先生が、サツミ顔色を變へて何處かに行つちまふ事もありませう。さう云ふ時に、子供はよく分りませぬけれども、さうも世の中ミ云ふものは、そこ迄真心、そこ迄良心的なものか、ミ云ふ風な事を一般的に感じて、びっくりするのであります。所が、そのサークミ逃げて行くので宜しいミ私は一應申しましたが、サークミ逃げて行くミ云ふのは、これはその子を教育する本當の態度ぢ

やありませぬ。サーツミ逃げて行く、子供は、自分は平氣だけれども本當の人間はさう平氣で居ないものか驚くだけで、それで大いなる影響を受けますけれども、何所迄もそこで終る問題であります。所が今度その先生がサーツミ行つて了ふのでなく、その子供を取扱まへてギューバーミ責めたミします。方法的手段的ぢやないから、相當な所迄責めたミします。その責められる時に、子供は、人生はこんな眞面目なものかミ云ふ事を感じさせられる共に、自分の事をこんなに心配してくれるものかミ云ふ事を感じるのあります。子供は、愛されるミ云ふ事に於て喜んで居りますが、自分の道徳的態度に對してギューバーミ責められた時に、自分の最も深いところに於て自分を考慮してくれる人ミしてそれを受取る機會があるミ思ふのであります。

斯ミ云ふ意味で、この眞情、この眞心、これを倫理的に言つて、良心的ミする、さう云ふ風なものゝ傾向、これは非常に大事な問題になつて来るミ思ふのであります。

こゝで又一つ註釋を加へますが、斯ミ云ふ真心ミが良心的ミか云ふ事に就て、唯さう云ふ事だミ云ふのでなく、それをそこ迄厳しく感ずる嚴しさを、子供の方もさう思つて受取り感ずるミ云ふ、これは世の中に如何に多くの道徳がありましても、そんな立派な道徳がありまして、それ丈ぢや出來ない事でありまして、その道徳を自分の生活の中へ何ミか入れて居る、茲に先生ミ云ふものが子供を教育して居るんぢやなくて、道徳が子供を教育する場合に於て、道徳の正しさに於て斯ミなれば、あゝなればミ命じ、要求する丈でありますが、そこに先生が立つてやつて居りますからこそ、今の生活態度に關するそこ迄の細かい感じ方が、先づ先生に起ります。さうしてそれが子供に移つて行く事になるのであります。



所がこゝにもう一つの問題があります。——此所で今のは一旦打切りまして——。

道徳的態度を子供に本當に養つて行かうとするに對しまして、今のは本當に中から出て來る、そこにもう置いて居る所であります。所がもう一つの事云ふのは、すつゝこれ違つた事でありますて、此所で全く頭を變へて頂かぬ中途半端なものになるのであります。人間生活は自分一人で暮して居るのでなくして、人と一緒に暮して居る云ふ社會的關係の中に置かれて居ります。同時に又人間の生活は、唯氣持だけで考へて居るものでなくして、恐らく外の自分の氣持から見る云ふ事、外である云ふ事の色々の事實の中に置かれて生活して居るのであります。人間同志が一緒に居る云ふその關係、色々の事實の關係に於て生きて居る云ふ事であります。その事實の關係に於て生きて居り、人間生活の關係に於て生きて居る云ふ事を他の言葉で申しますと、これを幼児の問題としてはずつ離れた話であります。現實的申しますか……或はリアリスティックな世の中申しても宜しいであります。若し私が人間關係なく——物でも宜しいのであります——唯一人で寝轉んで居りますならば、その時は私は、自分の生活丈を持つて居る丈であつて、現實の、リアリスティックな生活を持つて居ないのであります。

所が人間生活は、必ずリアリスティックな生活を持つて居る。そこでそのリアリスティックな他の人の關係、社會關係とか或は物事——物事云ふのは、實際の物である場合もありますし、仕事である場合もありますし、そこに他の、自分以外の條件に從ふ云ふ事であります。——さう云ふ事があつた場合にその中でその關係、その現實の影響を正しく受けて行くかどうか云ふ事が、一つの道徳的生活態度の問題になる云ふのであります。真心なん云ふお話は、此方から出る、湧き出づる泉の如きものでありますたが、それも暫く問題を別にしまして、自分が考へて居る外の條件に基いて行くのであります。この外の條件に基いて行きます方を現實的必然の中に自然に来る傾向と言つても宜しいのであり

ますが、例へば色々な事がありますが、或約束をしまして、さうして自分の受持なら受持が決つて来る。その受持云ふものが、それを引受けけるか引受けないかそこ迄は自分の眞情で動いて居つて宜しいのです。真心から喜んでその任に當る、或は、ここに依りましたならば否でも應でも自分を殺して良心的に生きる云ふ場合もあるであります。然し要するにこれは、自分の中から出て来る事である。然し既に一度その生活をしてしまったならば、今度は真心が自分が方から出て来るかぎうかの問題でなく、その場の實際の實状、自分が斯う云ふ役を持つた以上、これをしなければ全體にさう影響して来る、斯う云ふ現實を感じる。この力がこれが道德生活の一つの問題であります。

例へば、非常にかけ離れた例を引くのであります——私はこの頃、青年學校の青年に教育する修身、倫理の方で色々な講習をして居りますので、そこの例が頭に一つ浮びましたが、例へば青年學校の公民科要目の中に、納稅云ふ事があります。その要目の中にある友達は愛すべしとか、或は親に孝行すべしとか云ふ事は、全然眞情の方から育つて行くものでありますけれども、詰り人間の、さうしてもさうならざるを得ないものが、中から出て来るのであります。所が納稅云ふ事は、これはよくこの講習で冗談の様に話すのですが、さうしたつて納稅したくなる云ふ事はない。金が取り度い云ふ事は、眞情から出て来るかも知れませぬが、稅が納め度い云ふ氣持は、さうして見たつてないのであります。勿論今日この國の非常に費用の要ります時に、三宅坂に行つて獻金する云ふ方は、眞情から出て居るのであります。然し、一定の割當てられた稅を拂つて行く云ふ事は、真心から出ませぬ。これは何所から出るか云へば、その現實の理解がついて居る時に、國云ふものは斯う云ふ世界で、經濟がなければ成立立たないので、それは納稅に依て成立つので、それが行使出来るか出來ないか、自分には斯うふり當てられて居る云ふ事が分つて居て、その現實の理解に於てさう云ふ事をする丈の話であります。この納稅をちゃんとしないか云ふ事の道德上の差別は、真心の問題

でなく、そんなに納稅をちゃんとする方だつて、さうも實に喜び勇んで嬉しさうに真心から稅を納める事はないのでありますから、そつちの問題でなく、現實がピンと取られるかさうか云ふ問題であります。それが人間生活の道德と稱されるものゝ中に可成り澤山にあるのであります。

○

そこでその現實云ふものに就て、さう云ふピンとした考へ方と言ひますか、感じ方と言ひますか、これは真心の方に較べましては少し難しい問題であります。真心の方は、例へば子が親に孝行を盡す云ふ問題に就きまして、幼兒にはまだ大した複雑な事は分りませぬけれども「ねえ、お母さんに對して……」云ふ様な事を言へば、何なく少しほそ感じが分るのであります。けれども現實的な方面になつて來ますと、これは餘つ程色々の前後の關係がちやんと分らなくちや、その感じが取れない譯でありますから、幼兒に三つては少し難しい事と言へば難しい事であります。

隨て只今例に挙げました社會生活の、國家生活の大きな現實に因するさう云ふ感じ等を子供に與へて行く事は三つても出来ませぬが、幼兒同志の中に於て、あの幼稚園の單純なる生活の中に於ても行はれて來ます所の或程度の現實云ふものは、これはきちんと守らせなければならぬ。又、守らせる事が出来るであらうと思ふのであります。この幼兒生活の中に起つて來る現實、これの極めて實際的な例は、幼兒がそれゞゞ相談して決めて行きます義務云つた様なものであります。

私は、幼稚園に於きまして觀念的に、義務云ふものであるか、義務を守らなければさうであるか、斯う云ふ様な事は、幼兒に勿論分らせる事は出來ませぬ。然し乍ら例へば、あなたが此處に番をして居なければこの犬が逃げる、あなたがこれをさうかして居なければ風が吹いてこれが飛んで了ふから、あなたはこれを抑へて居なければならぬ、云ふ様な事は眞心の問題ではありませぬが、現實の問題であります。その、自分が其處に居なければ紙が飛んで了ふから或

時間抑へて居るゝ云ふ役廻りになつた時、それをいゝ加減にして下ふ、それは真心、眞情から言へば面倒なものであります。さうするゝ、それが理論的にさうであるよりも、その現實を現實として感する事に於て、適當なる處置が取られて行かなければならぬ。これは即ち一種の現實の道德感であります。

この意味で私は、幼稚園の子供に、善良なる性情を涵養しゝ云ふ様な事で指導して居るのは宜しいのであります。而もその責任感の教養ゝ云ふのは、責任ゝ云ふものゝ理窟から入つて行つて、責任感にさうなるゝ云ふ様なそんな難しい事ぢやないのであります。今こゝの現實のゝ物との關係、この事との關係のその生活がさうなるかゝ云ふこと、こゝの感じさへ養はれて行けば、即ち一種の——責任ゝ言ふゝ大袈裟であります。が端から見ますゝ責任的になつて居る、この意味からしまして、私は幼兒教育の中で、道徳的生活態度ゝ云ふものを養つて行きます爲に、さう云ふ方面を大いに注意する事が必要ぢやないかゝ思ひます。

○

私はこれで、二つの事をお話したのであります。この他澤山に、道徳的生活態度として養ひ度いものはあるであります。うはれども、餘りこれが大きく幅を利かして來まして、あれもこれもゝ云ふ事になりますゝ云ふゝ、幼稚園で直ぐに道徳教育の全般的な事をする事になりまして、折角道徳ゝ云ふ字さへも持つて來ないで、善良なる性情の涵養ゝ言つて居る基本教育の特質が毀される危険があります。だから此所では餘り多くを望む可きぢやありませんが、その善良なる性情を涵養して居ります中で、その子が本當に將來の道徳生活をするに至るに就て、缺く可からざる方向、即ちどんな方向を養はうとするかゝ云ふゝ、自分の方から真心でやつて行くゝ云ふ傾向ゝ、實狀に即して、現實を現實として感するゝ云ふ一種の責任感であります。が、唯責任ゝ云ふのは要するに現實感の發露に他ならぬのであります。然し斯う云ふ二つ位は、何時

も私共の心掛けの中にある可きぢやないかと思ふのであります。

さて斯う云ふ様な事を、そんならばどう云ふやり方でその生活態度を其方へ向けて行くか云ふ事であります。これは先程來賞罰のところで一應申しました事であります、この生活態度でありますからして、さう云ふ事をすべきものであるとかすべてからざるものであるとか云ふ觀念に上せて來ては、本當の態度になりませぬ。態度とは、自然にさうなつて行く事なのであります。可きが故に可きだ云ふ時には態度になりませぬから、そこで、可きであるとか云ふ様な事にはしないのであります。そこに現實なら現實の必要を、子供に感じる様に環境から仕向けられて、自らさうなる、さうならなければ何所迄も先生はあんたがそんな事をしてくれぢや困るぢやないか、いゝ悪い云ふ批判を下さないで、困るぢやないか、現實のその必要が、あんたの無責任の爲にどうかなるなら困るぢやないか云ふ丈の話です、自分の小さい者が責任を守るか守らないか云ふ事に就て困るか困らないか云ふ觀念が出て來さへすればいいのでありますから、可きものだ云ふ形、法則にしないで、その行き方で態度を態度として養つて行く行き方で行く可きであると思ふのであります。その態度を子供が現しました時に、「お前は今斯う云ふ態度に居斯う云ふ生活態度に居る、それが非常に喜ばしい事であるが嬉しい事であるが……」云ふ様な事を——非常に面倒な話し方を致しますが、お前がその生活態度に居る事はそれは實に嬉しい事であるとか悲しい事であるとか云ふ事を先生自身の眞情その儘でバーッとして行く事は、非常にいゝ申しました。然し眞情そのものでバーッとして行く事、それを子供の生活態度から一つ抜出して來て、斯う云ふ生活態度はいゝんだ云ふ普遍的な價値をそこに持出して來る事は違ふのであります。今子供がやつて居る事、その事に就て先生が、今起つて來た氣持をその儘ぶつづけて行く事は非常に強い力がある云ふ事を申しました。これは何所迄も、今のこの子供の生活態度に即して行く感じであります、その生活態度を生活から抜出して普遍的なものに眺めて、それを賞め

るこかざうするこか云ふ事こは大變違ふのであります。これは幼兒の訓育に就きましては、一般に何時でも非常に大事な事でありまして、何所迄もそこを賞めてそれを一般にして了はないのが、幼兒訓練の大きな祕訣であります。この場合に於てもそれが言へるこ思ふのであります。

そこで子供が例へば、いぢらしくも或責任を守つて、自分が言ひつけられた事に就てぢつこやつて居るこしましたならば、そのやつて居るこに對して嬉しくなつて、お陰で現實が斯うなつたこ云ふ事ですから御禮を言つてもいゝけれどもそれを拔出して、お前のやつて居る事ぢやなく、その事も含まれる一般的責任感はざうだこ云ふ様な事を言ふのはよくないこ思ふ。即ち今この場でこれを現實的に感じた事を喜んで居るのであつて、それが責任感こ云ふものであるかざうか、さう云ふ生活態度の普遍的なものであるかざうかこ云ふ事は、持つて来るものもない程事實の迫つて居る事であります。そこではその事こしてしか取扱はないのであります。さう云ふ眞實こか、或は現實の本當の感じこか云ふ様なものに依て生活する、さう云ふものがお話なんかの中に多く取入れられて來るこ云ふ時には、既に客觀化されて居ますから、そのお話の中では、さう云ふ事を普遍的問題こして取扱つて行くこ云ふ事は出來る事でありますし、又そこで子供に、斯う云ふ事であるこ云ふ稍々一般的の様な心持を養へるかこ思ふのであります。即ちこの眞情發露こか、或は現實に對する責任こか云ふ様な事は、童話の中に於きまして始めて多少普遍的に取扱はれるものであるかこ思ふのであります。

何故私が斯う云ふ事を申すかと言ひますこ云ふこ、童話の中に取扱はれるこ申しましたのは、童話の中で取扱はれるだけのお話をして居るのでなく、これをくれぐもその子供の生活の實際の中に普遍的に取扱つちやいけないこ云ふ事で御座いまして、矢張りそれを普遍的に取出して、修身こかお説教こ云ふ形になつてはいけない。この意味に於て、童話の意味が取扱はれて、比較的間違が少いこ思ふのであります。

色々なお話が混りますが、子供が童話を聞いて居る時の心理云ふものは、御承知の通り普遍と個との間にあります。實際遊んで居る太郎さんは、普遍ではなく、個の太郎さんであります。所が童話の中の太郎さんは、本當の太郎さんであると共にその太郎さんに依て代表せられた何歳かの全體的なものであります。所が童話の中の太郎さんは、本當の太郎さんであるのが童話の聞き方であります。まさまで本當の太郎が出て來た様にも感ずるし、その中にさう云つた子供云ふものに普遍化されて行くのであります。同時に童話を聞いて居ります子供の心理は、その童話の中に表現せられて居る客觀の感じ、それを自分の事として感じが、出たり這入りして居るのがその心持であります。その童話を實際聞いて居ます時は、普遍を普遍として感じてもこの中に具體化、個體化が入つて来ますし、人ごとにして聞いて来ましてもその中に自分が入つて来る。それが童話の特質であります。そこで童話の世界に普遍的に持出して、その生活態度、この人が責任を感じて斯う云ふ行き方で生活して居る云ふ事が、童話の中に取出されます、その實際それ自體、之を倫理學や修身の形にします。餘りにも普遍的になり過ぎた、其間の出たり這入りする感じを、子供に持たせ得るのであります。そこで若しも斯う云ふ事を取扱ふするならば、童話の中に於きましても斯う云ふ生活を強調する、或は斯う云ふ生活に對してそれを吾々が價値づけ行く態度を見せる云ふ事は、少し實際的生活から見る普遍的になつて來る云ふ事です。

兎に角さう云ふ風な方法は、誰も色々あらうと思ひますが、心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養するから斯うなつて行くのであります。兎には、さうなつて行くだらうと任して置くだけでは心許ないのであります。併せて道德生活へ子供を持つて行かう云ふ強い文化的の立場で見て、道德生活云ふものに就ては幼兒と結びつくところではどう云ふ事が問題になるかと言へば、今の二つが問題になるぢやないかと斯う云ふ事を考へたのであります。

今回のお話は、目的論的の方面であります爲に、多少固いお話になりまして相濟みませぬ——。(以下次號 文責在記者)

今 夏 の 講 習

この夏は何年振かのはげしい暑さだつたと申します。本當に文部省主催講習の七日間、来る日も來る日も文字通りの炎暑でありました、が凡五百名の會員が非常時にふさはしい意氣込みで終始熱心に聽講いたしました。時間數も今年はすつと多く、従つて内容も一ぱいに充實してありましたので會員の方々も隨分の收穫を得られた事と存じます。左に時間割を御紹介いたします。

八時	九時	十時	十一時	一二時	一時	二時	三時	四時
一一十一日 一式	一倉橋講師	一新庄講師	一同	上一及川講師	一同	上一	上一	上一
一一十二日 一倉橋講師	一同	上一新庄講師	一同	上一及川講師	一同	上一	同	上一
一一十三日 一倉橋講師	一同	上一淡路講師	一同	上一及川講師	一同	上一	同	上一
一一十四日 一倉橋講師	一同	上一淡路講師	一同	上一及川講師	一同	上一	同	上一
一一十五日 一倉橋講師	一同	上一野津講師	一同	上一	—	—	—	—
一一十六日 一淡路講師	一同	上一野津講師	一同	上一	—	—	—	—
一一十七日 一倉橋講師	一同	上一野津講師	一同	上一	—	—	—	—

猶二十四日午後よりの本協會主催遊戯講習も、戸倉講師の御熱心な御指導で流れる汗もかへつて快く、四日間に澤山の新材料ををざりぬきました。

誌面の都合上、講演筆記が全部本號にのせられませんでした事は誠に殘念でござりますが、つゞいて順次
せさせていただきます。

雜錄

二、各部會 於帝國大學一號館又は二號館 午前十時半——午後十二時半

○就學前及幼稚園部會開催 午前八時——十時

三、帝國大學總長、帝國教育會長共同主催招待園遊會

於帝國大學構內懷德館 午後四時——六時
東京府知事、東京市長共同主催招待園遊會

四、第一總會 於舊砲兵廠內後樂園 午後四時——六時
於帝國大學大講堂 午後八時——十時

卷頭に書かれてあります様に第七回世界教育會議は大きな收穫を得て和やかにその幕を閉られたのであります
が、その詳細はいつれ御報告出來ます事ご存じます。取り敢へず時間割だけをお知らせ致します。

行事

八月三日

一、各部會

○就學前及幼稚園部會開催

二、東京府知事東京市長共同主催招待園遊會

前日ニ同ジ

東京帝國大學總長、帝國教育會長共同主催招待園遊會

前日ニ同ジ

三、文部大臣招待觀劇會 於歌舞伎座

午後八時——十時

八月一日

一、東京音樂學校長招待和洋音樂演奏會
於丸ノ内東京會館

午後八時——十時

八月一日

八月四日

一、各部會

○家庭及學校部會 於十八番教室

午前九時——十二時

二、第二總會 講演會 於帝國大學大講堂

午後八時——十時

八月五日

一、各部會

家庭及學校部會開催

八月六日

二、部會

三、世界聯合教育會總會

外務大臣招待園遊會(招待外人ノミ)
(招待外人ノミ)

八月七日

一、各部會

○就學前及幼稚園部及家庭及學校部聯合部會開催

午前九時——正午

二、第三總會 於帝國大學大講堂

午後八時——十時

施設其他の催物

市内觀光視察

日本舞誦見學(外人ニ限ル)

花柳壽輔非誦研究所

教育展覽會

時代風俗展覽會

古美術展覽會

現代日本畫展覽會

東京帝國大學視察(外人ノミ)

生花展覽會

小學校施設見學

下谷區忍岡尋常小學校

東京女子高等師範學校
白木屋
東京府美術館
東室博物館

日本幼稚園協会編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校校長 下村壽一

主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主任 倉橋惣三

東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主任

日本幼稚園協会規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協会ト稱ス

第三條 會員ターラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ醸出スヘシ、員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ調査

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協会ト稱ス

第三條 會員ターラントスルモノハ幼稚園ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ醸出スヘシ、員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ調査

定價	
半額年冊送金	月分冊送金
拾貳册送金四圓貳拾錢	金參拾五錢
拾貳册送金四圓貳拾錢	金參拾五錢

(外國郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
昭和十二年九月十五日印刷納本
神田區駿河臺ノ三井田
廣告社に御申込下さい

昭和十二年九月十五日發行本

第三十七卷 第八・九號 幼兒の教育

不許複製 計編 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

禁轉印刷者 東京市本郷區駒込町百七十二番地
倉橋惣三

常山則常 柴山

林舍 営業所

大塚山三十五番地 東京市本郷區駒込町百七十二番地

日本幼稚園協會 振替口座東京一七三六番

振替口座東京一七三六番

本誌御注文の方は凡て前金(郵稅共)で願ひます。

郵稅代用の場合には總て割増御送金の場合は必ず本誌の代金に對しては別に領收證を差し出しません。特に御入用の方は往復はがきで御中越を送ります。

送金の節には第何月號より第何月號迄と明記せられたる御送金の場合は御送金の代金に對しては別に領收證を差し出しません。特に御入用の方は往復はがきで御中越を送ります。

送金の節には第何月號より第何月號迄と明記せられたる御送金の場合は御送金の代金に對しては別に領收證を差し出しません。特に御入用の方は往復はがきで御中越を送ります。

送金の節には第何月號より第何月號迄と明記せられたる御送金の場合は御送金の代金に對しては別に領收證を差し出しません。特に御入用の方は往復はがきで御中越を送ります。

送金の節には第何月號より第何月號迄と明記せられたる御送金の場合は御送金の代金に對しては別に領收證を差し出しません。特に御入用の方は往復はがきで御中越を送ります。

送金の節には第何月號より第何月號迄と明記せられたる御送金の場合は御送金の代金に對しては別に領收證を差し出しません。特に御入用の方は往復はがきで御中越を送ります。

東京帝國大學教授 文學博士 淡路圓治郎 先生著

幼兒性行評定尺度

四六版總布厚表紙本綴
裝幀瀟洒ケース入美本綴
定價金八一錢圓

本書は幼兒保育上最も緊切なる性行の評定に關する精細緻密なる新研究と、之れが効切なる廣汎の評定目標を決定し、一々之に周到親切なる解釋を與へ、之に處する所の方々向を具體的に指示せるもの、幼兒保育に關係ある各位に、直に役立つ絶好の指針にして、敢て一讀を推奨する所以である。

文學博士 淡路圓治郎
文學士 牛島義友
吉田虎彦
三先生共著

日本幼稚園協會編纂

幼兒發達検査用具

四六版總布厚表紙本綴
裝幀瀟洒ケース入美本綴
定價金八一錢圓
送料金八一錢圓

一揃定價金三十圓

握力計・棒さし・菱形用紙・折紙・色紙貼り・粘土手本・畫明紙・比較板・積木・色彩記憶・色球並べ。
組立盤・繪合せ・觀察繪・記入用紙・ストップウォッチ

△但し右のうち「ストップウォッチ」は別に金二十圓也申受けます

淡路博士は心理學の權威にして、嚮に兒童心理學究の立場より幼兒保育上必須の好著「幼兒性行評定尺度」あり、茲に亦、牛島、吉田兩學士と相共に研究に没頭すること多年にして、その成果を輯錄して以て此著を成し、併て本用具を創案して之を慎重に幾多の幼稚園に實驗して絶大なる效果を認め、「幼兒發達検査」の著と共に保育に關係ある各位に便せんとする。蓋し具に之を實施して確的な検定をなさんか、保育上に益すること絶大なるものあるは實際に徵して言を俟たぬ所である。

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可

昭和十二年九月十五日印 刷 納本

臨時定價七十錢

食官ルレヘーレフ 社會式株

番二六六三(33) 話電・二町保神・田神・京東 社本
番七二八三
番八三九一(24) 話電・五町後備・區東・阪大 所張出